公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第742集

# 厚田橋詰遺跡

上 信 自 動 車 道 吾 妻 東 バ イ パ ス 事 業 に 伴 う
埋　蔵　文　化　財　発　掘　調　査　報　告　書

2024

群 馬 県 上 信 自 動 車 道 建 設 事 務 所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

# 厚田橋詰遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2024

群馬県上信自動車道建設事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

厚田橋詰遺跡１面遠景(南西から)

厚田橋詰遺跡２面全景(北東から)

# 序

上信自動車道は、渋川市の関越自動車道渋川伊香保インターチェンジ付近から、吾妻地域を経て長野県東御市の上信越自動車道東部湯の丸インターチェンジ付近につながる高規格道路です。この道路建設に伴う発掘調査が群馬県東吾妻町の厚田橋詰遺跡において、令和4年度に行われました。本書はその調査報告書となります。

発掘調査では、中世の掘立柱建物や土壙墓、ピット、溝などを調査しました。遺構の発見こそありませんでしたが、縄文土器や弥生土器、古墳時代から古代の土師器や須恵器、金属製品の出土もありました。また、鉄滓がまとまって出土したことから、中世の本遺跡付近で製鉄が営まれていた可能性が考えられました。

今回の報告書刊行に至るまでには、群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部、群馬県教育委員会、東吾妻町教育委員会、及び地元関係者の皆さまに多大なご協力を賜りました。感謝を申し上げます。

本報告書が地域の歴史解明の資料として活用がなされることを願い、序といたします。

令和6年8月

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
理 事 長　　向 田 忠 正

# 例　　言

1　本書は、令和４年度上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を実施した厚田橋詰(あつだはしづめ)遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　厚田橋詰遺跡は、群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田1166・1167・1168-1・1174・1175・1176・1178番地および道路に所在する。

3　事業主体は群馬県上信自動車道建設事務所(群馬県県土整備部)である。

4　調査主体は公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団である。

5　発掘調査の期間と体制は次の通りである。

調査期間　令和４年４月１日～令和４年５月31日(履行期間：令和４年４月１日～令和５年３月31日)

調査担当　調査部調査１課　上席調査研究員・調査統括　須田正久　　主任調査研究員　田村　真

遺跡掘削工事請負：株式会社歴史の杜

委託　地上測量：株式会社測研　　空中写真撮影：技研コンサル株式会社

6　整理事業の期間と体制は次の通りである。

整理期間　令和５年12月１日～令和６年３月31日(履行期間：令和５年12月１日～令和６年３月31日)

整理担当　資料部資料３課　専門調査役　石守　晃

7　本書作成の担当者は次の通りである。

編　　集　石守　晃

執　　筆　第４章第２節は辰巳晃司・佐伯史子・奈良貴史(新潟医療福祉大学　教授)が執筆し、左記以外は主に整理担当が執筆した。

デジタル編集　齊田智彦(総括・写真図版)・石守　晃(本文)

遺物観察　縄文・弥生土器：専門官　藤巻幸男

土師器・須恵器：藤巻幸男・専門調査役　神谷佳明(時期判定)

陶磁器：専門調査役　大西雅広

石器：上席調査研究員　関口博幸

金属製品・炭化物：専門員(主任)　板垣泰之・専門調査役　関邦一

遺物写真撮影：主任調査研究員　平方篤行

8　発掘調査諸資料及び出土品は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

9　発掘調査及び本書作成に当たり諸氏、機関よりご協力、ご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表します。

群馬県上信自動車道建設事務所、群馬県地域創生部文化財保護課、吾妻郡東吾妻町教育委員会、地元関係各位

# 凡　例

1　厚田橋詰遺跡の遺構平面図は世界測地系国家座標（座標第IX系）を用いて測量した。遺構図の中で使用した北方位はすべて座標北で、真北方向角は＋０°　40′48.75″である。

2　遺構の主軸方位は、座標北からの傾きを示した。

3　遺構平面図の縮尺は、原則として以下を使用した。但し、遺構によっては異なる縮率を用いたものもある。
掘立柱建物　１／60
土壙墓・土坑・ピット・集石・溝・畑　１／40
廃滓　１／50

4　遺物図の縮尺は以下の通りである。
土器　１／３、石錐１／１、石製品１／４、石器１／３、
銭貨１／１、鉄製品１／２

5　遺物番号は出土遺構ごとの連番で、番号は本文・挿図・表・写真図版ともに一致する。

6　図中で使用したスクリーントーンは、以下のことを表す。
灰釉

7　本書では「浅間粕川テフラ」は、略号「As-Kk」を使用した。

8　土層や土器の色調観察は、農林水産省農林水産技術会議監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』を参考とした。

9　第１図は昭和59年度の国土地理院への問い合わせに対する指示に基づいて、国土地理院20万分の１地勢図「長野」「宇都宮」を使用した。

10　第２・３・６・７図は、国土地理院2.5万分の１地勢図「群馬原町」（平成９年９月１日発行）を使用した。

# 目　次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図・表・写真目次

第１章　厚田橋詰遺跡の発掘調査とその経過・・・・1
　第１節　調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・1
　　1　上信自動車道・・・・・・・・・・・・・・1
　　2　発掘調査に至る経過・・・・・・・・・・・3
　第２節　調査経過・・・・・・・・・・・・・・・3
　第３節　調査の方法・・・・・・・・・・・・・・4
　　1　遺跡略号・・・・・・・・・・・・・・・・4
　　2　調査区と調査面・・・・・・・・・・・・・4
　　3　発掘調査の方法・・・・・・・・・・・・・4
　　4　基本土層・・・・・・・・・・・・・・・・5
第２章　遺跡を廻る環境・・・・・・・・・・・・・6
　第１節　地理的・地質的環境・・・・・・・・・・6
　　1　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・6
　　2　地質的環境・・・・・・・・・・・・・・・7
　第２節　歴史的環境・・・・・・・・・・・・・・7
　　1　旧石器時代・・・・・・・・・・・・・・・7
　　2　縄文時代・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　3　弥生時代・・・・・・・・・・・・・・・・7
　　4　古墳時代・・・・・・・・・・・・・・・・8
　　5　奈良・平安時代・・・・・・・・・・・・・10
　　6　中世・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　　7　近世・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第３章　発見された遺構と遺物・・・・・・・・・・12
　第１節　1面(中世以降)の遺構と遺物・・・・・・12
　　1　1面の調査概要・・・・・・・・・・・・・12
　　2　掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・13
　　3　土壙墓・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　　4　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
　　5　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・26
　　6　集石・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
　　7　溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
　　8　畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
　　9　廃滓・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
　　10　遺構外の出土遺物・・・・・・・・・・・40
　第２節　2面(縄文〜平安時代)の遺構と遺物・・・41
　　1　2面の調査概要・・・・・・・・・・・・・41
　　2　土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
　　3　ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・43
　　4　遺構外の出土遺物・・・・・・・・・・・・45
　第３節　旧石器確認調査・・・・・・・・・・・・46
　　1　2面下の確認調査の概要・・・・・・・・・46
　　2　確認調査の成果・・・・・・・・・・・・・46
第４章　自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・47
　第１節　出土骨の鑑定委託・・・・・・・・・・・47
　　1　自然科学分析資料・・・・・・・・・・・・47
　　2　自然科学分析の目的・・・・・・・・・・・47
　　3　自然科学分析の委託・・・・・・・・・・・47
　　4　分析の成果・・・・・・・・・・・・・・・47
　第２節　群馬県東吾妻町厚田橋詰遺跡から出土した人骨の人類学的報告・・・47
第５章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・51
　第１節　厚田橋詰遺跡の概要・・・・・・・・・・51
　第２節　出土鉄滓の概要・・・・・・・・・・・・51

遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
非掲載遺物集計表・・・・・・・・・・・・・・・・56
写真図版

# 挿図目次


第１図　上信自動車道と厚田橋詰遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・1
第２図　厚田橋詰遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第３図　試掘調査範囲図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
第４図　調査区の位置・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
第５図　基本土層模式図（左上）・基本土層実測位置図（左）・
基本土層実測図（右）・・5
第６図　地理・地質図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
第７図　周辺遺跡図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
第８図　調査区１区１面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第９図　１号掘立柱建物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
第10図　１号土壙墓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
第11図　土坑（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
第12図　土坑（２）と９号土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・20
第13図　土坑（３）と15号土坑出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・22
第14図　土坑（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
第15図　土坑（５）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
第16図　土坑（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
第17図　ピット（１）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
第18図　ピット（２）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
第19図　ピット（３）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
第20図　ピット（４）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第21図　ピット（５）と64号ピット出土遺物・・・・・・・・・・・・・31
第22図　ピット（６）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
第23図　ピット（７）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第24図　ピット（８）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
第25図　１号集石と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第26図　１号溝・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第27図　１号畑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第28図　１号廃滓・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第29図　１号廃滓出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第30図　２号廃滓と出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第31図　１面遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第32図　調査区１区２面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
第33図　24・29・30号土坑・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
第34図　68号ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第35図　62・63・65・66・67・70号ピット・・・・・・・・・・・・・・44
第36図　69号ピット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第37図　２面遺構外出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
第38図　確認調査トレンチ配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
第39図　１号廃滓遺物位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
第40図　鉄滓重量図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52


# 表目次


第１表　周辺遺跡一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第２表　周辺古墳一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
第３表　１号廃滓出土鉄滓重量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第４表　２号廃滓出土鉄滓重量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
第５表　永久歯の歯冠計測値・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
第６表　遺構別鉄滓重量・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
第７表　遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
第８表　遺物観察表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
第９表　非掲載遺物集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56


# 写真目次


口絵　厚田橋詰遺跡１面遠景（南西から）
厚田橋詰遺跡２面全景（北東から）

11頁　１　郷原遺跡
２　四戸古墳群石室
３　岩櫃城主郭
50頁　写真図版１　１号土壙墓人骨

ＰＬ．１　１　１面全景（北東から）
２　１面全景（南西から）
ＰＬ．２　１　遺構検出状況（手前北西）
２　１面調査区中南部の遺構（北西から）
ＰＬ．３　１　１号掘立柱建物全景（西から）
２　１号掘立柱建物ピット２土層断面（南東から）
３　１号掘立柱建物ピット４（北東から）
４　１号掘立柱建物ピット５（北西から）
５　１号掘立柱建物ピット７（北西から）
ＰＬ．４　１　１号土壙墓上面（南西から）
２　１号土壙墓人骨出土状況（東から）
ＰＬ．５　１　１号土坑全景（北西から）
２　２号土坑全景（西から）
３　３号土坑全景（北から）
４　４号土坑全景（北から）
５　５号土坑全景（北から）
６　６号土坑鉄滓出土状況（南東から）
７　７号土坑全景（北から）
８　８号土坑全景（東から）
ＰＬ．６　１　９号土坑全景（北西から）
２　10号土坑全景（北西から）
３　11号土坑全景（西から）
４　12号土坑全景（南東から）
５　13号土坑全景（西から）
６　15号土坑全景（北西から）
７　16号土坑全景（西から）
８　17号土坑全景（北から）
ＰＬ．７　１　18号土坑全景（北東から）
２　19号土坑土層断面（北東から）
３　20号土坑全景（北東から）
４　21号土坑全景（北から）
５　22号土坑全景（北西から）
６　23号土坑全景（北西から）
７　25号土坑全景（西から）
８　26号土坑全景（西から）
ＰＬ．８　１　27号土坑全景（北東から）
２　28号土坑全景（西から）
３　１号集石全景（南東から）
４　１号集石礫出土状況（南東から）
５　１号集石土層断面（北東から）
６　１号溝土層断面（北西から）
７　１号溝全景（北から）
ＰＬ．９　１　１号ピット全景（南東から）
２　２号ピット全景（西から）
３　３号ピット全景（北西から）
４　４号ピット全景（北西から）
５　５号ピット全景（北西から）
６　６号ピット土層断面（南西から）
７　７号ピット全景（北東から）
８　８号ピット全景（北西から）
９　９号ピット全景（北西から）
10　10号ピット全景（北西から）
11　11号ピット全景（南東から）
12　12号ピット全景（南東から）

13　14号ピット全景(南西から)
14　16号ピット全景(南西から)
15　17号ピット全景(北西から)
PL．10　1　18号ピット全景(北西から)
2　20号ピット全景(南東から)
3　21号ピット全景(南東から)
4　22号ピット全景(北西から)
5　23号ピット全景(北西から)
6　24号ピット全景(北西から)
7　25号ピット全景(北東から)
8　26号ピット全景(北東から)
9　27号ピット全景(北西から)
10　28号ピット全景(北西から)
11　29号ピット全景(北西から)
12　30号ピット全景(北から)
13　31号ピット全景(北西から)
14　33号ピット全景(北から)
15　34号ピット全景(北から)
PL．11　1　35号ピット全景(北西から)
2　37号ピット全景(北西から)
3　38号ピット全景(北から)
4　39号ピット全景(北西から)
5　40号ピット全景(北西から)
6　41号ピット全景(北西から)
7　42号ピット全景(北東から)
8　43号ピット全景(北から)
9　44号ピット全景(北西から)
10　45号ピット全景(北東から)
11　46号ピット全景(北から)
12　47号ピット全景(北東から)
13　48号ピット全景(北西から)
14　51号ピット全景(南から)
15　52号ピット全景(北西から)
PL．12　1　53・54号ピット全景(北西から、53左・54中)
2　55号ピット全景(北から)
3　56号ピット全景(北西から)
4　57号ピット全景(西から)
5　58号ピット全景(北から)
6　59号ピット全景(北西から)
7　60号ピット全景(北西から)
8　61号ピット全景(北から)
9　64号ピット全景(西から)
10　1号畑全景(北から)
PL．13　1　1号畑土層断面(南から)
2　1号廃滓土層断面(北東から)
3　1号廃滓出土状況全景(北西から)
4　1号廃滓出土状況2回目(北西から)
5　1号廃滓鉄滓出土状況(33グリッド、北西から)
6　1号廃滓鉄滓出土状況(24グリッド、北西から)
7　1号廃滓鉄滓出土状況(出土遺物7、北西から)
PL．14　1　2号廃滓出土状況全景(北から)
2　2号廃滓出土状況(北東から)
3　2号廃滓釘出土状況(南西から)
4　遺構外キセル出土状況(北から)
PL．15　1　2面全景(北東から)
2　2面土坑・ピット群(東から)
3　24号土坑全景(北西から)
4　29号土坑全景(北東から)
5　30号土坑全景(南西から)
PL．16　1　62号ピット全景(北西から)
2　63号ピット全景(北西から)
3　65号ピット全景(北西から)
4　66号ピット全景(北西から)
5　67号ピット全景(西から)
6　68号ピット全景(北西から)
7　69号ピット全景(北西から)
8　70号ピット全景(北西から)
9　遺構外石鏃出土状況(北西から)
PL．17　1　基本土層No.1(南壁、北西から)
2　基本土層No.2(北壁、南東から)
3　確認調査5・6号トレンチ(北西から)
4　西側谷確認調査2号トレンチ(北東から)
5　旧石器確認調査1号トレンチ(北西から)
6　旧石器確認調査1号トレンチ南壁土層断面(北西から)
PL．18　出土遺物
PL．19　出土遺物

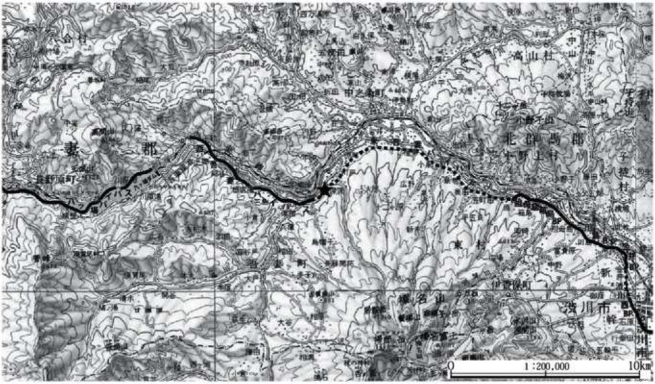
# 第1章　厚田橋詰遺跡の発掘調査とその経過

## 第1節　調査に至る経過

### 1　上信自動車道

上信自動車道は、防災拠点や物流拠点が集積するエリア間を結ぶ強靭な道路ネットワーク（北群馬渋川エリア～吾妻エリア）に位置付けられ、群馬県渋川市の関越自動車道・渋川伊香保インターチェンジ付近から東吾妻町、長野原町、嬬恋村を経由し、長野県側の上信自動車道に至る延長約83kmの高規格道路である。この道路を整備することにより、過去に数度の土砂崩落による道路寸断があった北群馬渋川エリアと吾妻エリア間の強靭なネットワークが構築され、大規模な災害時においても、経済活動の継続性の確保を可能にし、県民の安全な暮らしや企業などの安定した経済活動を支援する。また移動時間の短縮による物流の効率化、草津温泉などを中心とした周遊性の向上がはかられる。

上信自動車道は、広域道路整備基本計画策定に関する平成4（1992）年9月3日の建設省道路局長通達（建設省道企発第52号）と、同日付の同省道路企画課長・都市局街路課長通知（建設省道企発第53号、建設省都街発第32号）に基づく、群馬、長野両県の広域道路整備基本計画に位置付けられた道路であり、平成6（1994）年12月16日に地域高規格道路の計画路線に指定されている。なお、上信自動車道は設計速度60～80kmの交流促進型路線で




第1図　上信自動車道と厚田橋詰遺跡位置図（国土地理院20万分の1地勢図「長野」「宇都宮」使用）

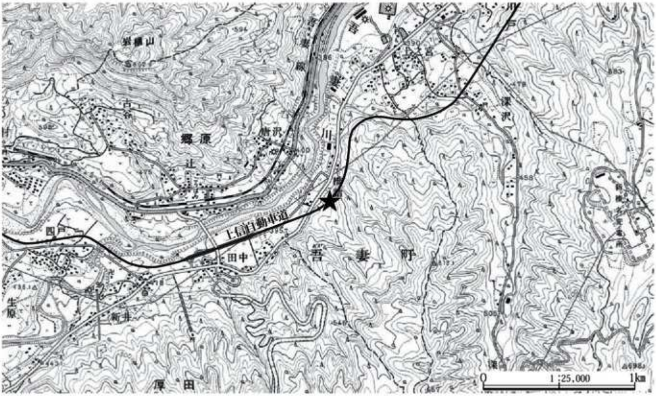
あり、高速交通網空白地帯の解消、交通渋滞の緩和、災害時の安全安心確保と、救急医療、観光振興、産業物流への貢献が期待されている。

本県に於いて上信自動車道は、渋川市の渋川伊香保インターチェンジから、吾妻郡長野原町の国道145・292号の交差点である大津交差点までが既に事業化されており、東から渋川西、金井、川島、祖母島～箱島、吾妻東、吾妻西、八ッ場、長野原の８バイパスの建設が計画、進捗している。このうち渋川西バイパス、八ッ場バイパス、長野原バイパスが既に供用に附されている。

なおその走向経路は、渋川インターチェンジを起点として、同インターチェンジ北側の中村交差点を西折して国土交通省が管理する渋川西バイパス（渋川市の環状線）で渋川市の旧市街地の南西側を迂回し、県道35号渋川東吾妻線に並走して金井バイパスで北上し、川島、祖母島～箱島、吾妻東バイパスの中程までを県道35号線、吾妻東バイパス中程から吾妻西バイパスの中程までを国道145号に並走して吾妻川右岸を走行し、吾妻郡東吾妻町根小屋で吾妻川を渡河し、国道145号沿いに北接する八ッ場バイパス途中の吾妻郡長野原町林で再び渡河するまでは吾妻川左岸を走行し、以西は吾妻川右岸を走り、八ッ場バイパスの終点間近で再び吾妻川を渡河している。尚、草津へ向かう国道292号と分岐する大津交差点以西の区間は、本稿執筆時点では調査区間であり、バイパス路線は確定していない。

このうち吾妻東バイパスは、国道145号のバイパス道路で、東吾妻町箱島から厚田までの延長約13.1kmの路線であり、厚田橋詰遺跡は同バイパス区間（東吾妻町植栗～厚田間6.4km）に所在する。現道の国道145号には斜面崩壊等の可能性のある危険区域があり、災害時の緊急輸送に支障を生じることが憂慮されたために計画された道路である。本路線は２車線、設計速度60kmの道路として計画されており、事業期間は平成25（2013）年度から令和８（2026）年度の予定である。

【参考文献】
愛媛県土木部道路都市局道路建設課（2000）「広域道路整備基本計画と地域高規格道路」
群馬県<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/158233.pdf>
2024年１月17日参照
群馬県<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/life/171878_177985_misc.pdf>
2024年１月17日参照
群馬県<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/life/171878_177987_misc.pdf>
2024年１月17日参照
群馬県県土整備部道路整備課（2015）「事業概要紹介　群馬がはばたくための７つの交通軸構想」『用地ジャーナル』23巻10号、pp25-30
道路法令研究会（2016）『道路法令総覧　平成29年版』、pp491-492




第２図　厚田橋詰遺跡位置図（国土地理院2.5万分の１地勢図「群馬原町」使用）

## 2　発掘調査に至る経過

（1）吾妻東バイパスの建設

上述のように上信自動車道東吾妻バイパスの建設事業は群馬県中之条土木事務所により平成25（2013）年度から開始されているが、平成29年度までに道路設計及び橋梁詳細設計が完了し、引き続き橋梁建設等に着手するとともに、埋蔵文化財調査についても群馬県地域創生部文化財保護課(以下「県保護課」とする)と協議を始め、順次試掘調査、本調査を進めている。なおこの間、同建設事業は中之条土木事務所から平成29（2017)年４月に設置された群馬県上信自動車道建設事務所(以下「上信道事務所」とする)に移管されている。

（2）試掘調査

令和３年10月19日、上信道事務所より県保護課に対して試掘調査の依頼が出された。この依頼を受けた県保護課は、令和３年10月25～28日に試掘調査を実施した。この時の試掘対象区域は、東吾妻町大字厚田地内から大字岩井地内にかけての約400mの区間であった。県保護課はこの区域に29か所の試掘トレンチを設定し、試掘調査を実施したが、その結果、西端の６か所の試掘トレンチの範囲で遺構が確認されたことから、当該区域(厚田橋詰遺跡)を発掘調査が必要な区域とし、中・東部の区域を発掘調査が不要な区域と判断した。そして令和４年２月４日に県保護課は、この試掘調査所見を上信道事務所に回答するとともに、東吾妻町教育委員会に通知した。

第３図　試掘調査範囲図(S=1/5000)

（3）発掘調査に至る経過

上信道事務所は、県保護課の調整を経て、当該区域の発掘調査を(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(以下「事業団」とする)に委託することとして、令和４年４月１日、事業団に対して当遺跡ほか６遺跡に対する発掘調査委託契約の協議を行い、事業団もこれに応じて厚田橋詰遺跡の発掘調査を実施することとなった。

# 第２節　調査経過

本遺跡の発掘調査は令和４年４月１日より同年５月31日までの間に実施した。以下、その経過を記す。

- ４月４日　事業団側関係者と委託業者打合せ。事務所用地整備。調査事務所建設(～６日)。
- ５日　調査区設定。事務所設置。環境整備開始。
- ６日　調査区法面整形。
- ７日　西側より１面重機掘削開始。
- ８日　遺構検出作業(１～５号土坑、鉄滓出土)。
- 11日　１～５号土坑より遺構掘削開始。１号廃滓遺物写真撮影開始。１号畑検出作業。
- 12日　１号畑掘削、土層断面・全景写真撮影、同遺構より測量開始。１号廃滓グリッド遺物検出。
- 13日　７号土坑、１～22号ピット掘削、土層断面写真撮影、測量。
- 18日　６～13号土坑、23～26号ピット土層断面写真撮影、測量。
- 19日　９～11・13号土坑と１～35号ピット全景写真撮影。17号土坑、36～42号ピット掘削、土層断面写真撮影、測量。
- 20日　１号廃滓土層断面・２号廃滓遺物写真撮影。36～50号ピット土層断面写真撮影。８～11・13・18号土坑、36～44号ピット全景写真撮影。１号土壙墓検出。６号土坑鉄滓出土状況写真撮影。
- 22日　２号廃滓出土状況・土層断面写真撮影。ピット土層断面・全景写真撮影。１号土壙墓土層

断面写真撮影。

25日　１号土壙墓出土遺物写真撮影。20号土坑、52～60号ピット全景写真撮影。

26日　１号土壙墓出土写真撮影、骨取り上げ。１号集石、１号掘立柱建物全景写真撮影。遺構検出作業。

27日　１号掘立柱建物全景写真撮影。空中写真撮影準備作業。

28日　空中写真撮影。重機による谷地部確認トレンチ掘削(重機使用)。

５月２日　２～６号確認トレンチ土層断面写真撮影、測量。南壁基本土層断面写真撮影、測量。
２面掘削開始。

９日　２面遺構検出作業。土坑、ピット半裁から２面遺構掘削開始(～10日)。

10日　土坑・ピット完掘作業、写真撮影、測量。

11日　２面全景写真撮影。基本土層・旧石器確認トレンチ土層断面写真撮影。埋め戻し作業開始。

12日　１号旧石器トレンチ掘削作業、土層断面・全景写真撮影。基本土層断面測量。撤収作業。

16～19日　重機による埋め戻し作業。

20～23日　重機による埋め戻し作業。資材等運び出し。

24日　資材等運び出し。

25～30日　事務処理。

30日　事務所撤去。

## 第３節　調査の方法

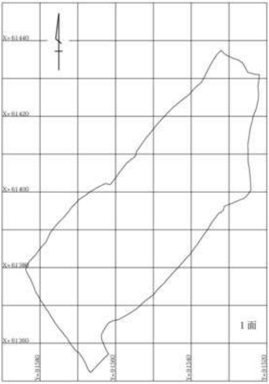
### 1　遺跡略号

本書に報告する厚田橋詰遺跡の略号は大字名「厚田(あつだ)」と小字名「橋詰(はしづめ)」のそれぞれのローマ字の頭文字を合わせた「ＡＨ」とした。

### 2　調査区と調査面

厚田橋詰遺跡の調査区は調査段階では「１区」としているが、１か所のみであるため、本書では単に「調査区」と記す。

また調査面は県保護課の試掘成果から２面あり、As-Kk一次堆積層下面を１面、黄橙色土層上面を２面とした。おおよその時期は、１面は中世以降、２面は縄文時代としている。なお、本書では中世以降の時期の遺構と遺物は１面に属するものとして報告し、古代以前の遺構・遺物は２面に属するものとして報告する。




第４図　調査区の位置(S=1/1000)

厚田橋詰遺跡では、グリッドの設定は行わなかったが、遺構等の位置は国家座標に基づく１ｍ単位の世界測地系国家座標(座標第Ⅸ系)に従って記録した。本書では「Ｘ軸」「－」「Ｙ軸」の順にグリッドとして標記した。なお厚田橋詰遺跡の調査区はX=61352 ～ 61441－Y=-91521 ～ -91583グリッドの範囲に在る。

### 3　発掘調査の方法

（１）　掘削

表土と１・２面間の土壌は掘削重機を使用して掘削し、排土はクローラーダンプを使って排出した。その後、遺構確認を鋤簾等を用いて人力で行い、遺構の掘削は移植ごて等を用いて人力で行い、排土は一輪車やキャリーダンプ等で運搬した。なお、ロープスティックとトラロープを使用して調査区を囲繞し、排土はネットをかけて土砂の流出を防止した。また看板や旗を使って危険個所の明示をし、防犯対策として夜間警備を実施した

なお調査終了後に掘削重機とクローラーダンプを使用して埋め戻しを行った。

（２）　記録

個々の遺構の土層注記や写真撮影や、高所作業車からの写真撮影は、デジタル写真とブローニ版による銀塩写真を用いて調査担当者がおこなった。遺構測量はデジタル測量で実施し、デジタルデータとして保管するとともに、平面図は調査区全体の1/40の割付図と1/200の全体図、土層断面図は1/20図として作成した。これらの測量作業は、空中写真撮影と併せて専門業者に委託した。

出土遺物は、出土状態の写真撮影と平断面位置の測量を適宜行い、取り上げた。この際、出土遺物はビニール袋に収納し、地区、遺構、出土層位、取り上げ番号等を記した荷札を付した。発掘調査終了後に洗浄と出土位置等の注記を業者に委託した。

## 4　基本土層

本遺跡の基本土層は、基本土層として記録した南北調査区壁際２地点に、旧石器等の確認調査時の土層断面記録を併せて作成した。土層の説明は以下の通りである。

なお、ⅩⅤ・ⅩⅥ・ⅩⅦ層の順位は明確にできなかったため、層が前後する可能性がある。

Ⅰ　表土。

Ⅱ　にぶい黄褐色土(10YR5/4)：As-Kk混土。

Ⅲ　明黄褐色土(10YR6/6)：As-Kk混土。鉄分沈着。

Ⅳ　暗褐色土(10YR4/4)：As-Kk混土。しまりあり。

Ⅴ　As-Kk一次堆積層。

Ⅵ　褐灰色粘質土(10YR5/1)：小礫含む。

Ⅶ　黒褐色土(10YR3/1)黄橙色粒、明黄褐色粒含む。鉄分凝縮ブロックを少量含む。粘性強い。

Ⅷ　黄褐色土(10YR5/6)：黄橙色粒・ブロック含む。

Ⅸ　黄橙色土(10YR8/6)：暗褐色土と少量の黄橙色粒含む。

Ⅹ　黄橙色土(10YR7/8)：大型の地山礫と多量の黄橙色・明黄褐色粒含む。しまりあり。

Ⅺ　暗褐色土(10YR3/4)：黄橙色・明黄褐色粒と礫混入。

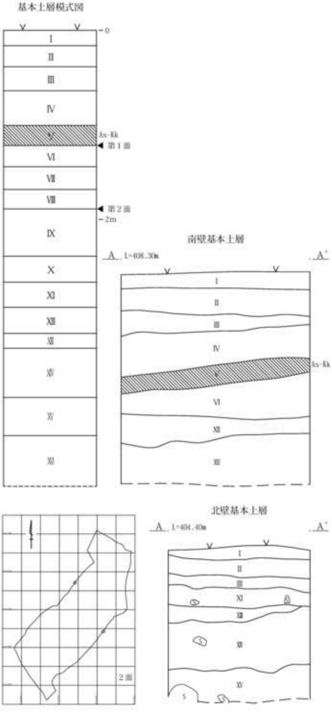
Ⅻ　褐色土(10YR4/4)：粘質黒色土と多量の小礫含む。

ⅩⅢ　黄橙色土(10YR7/8)：暗褐色土と少量の黄橙色・明黄褐色粒含む。しまりあり。

ⅩⅣ　黄橙色土(10YR8/8)：礫と多量の黄橙色・明黄褐色粒含む。しまりあり。

ⅩⅤ　黄褐色土(10YR5/8)：大型の礫と多量の黄橙色・明黄褐色粒含む。しまりあり。

ⅩⅥ　灰白色土(10YR8/1)：灰白色粘質土主体。鉄分沈着。




第５図　基本土層模式図(左上)・基本土層実測位置図(左)・基本土層実測図(右)（平面図：S=1/2000　断面図：S=1/40）

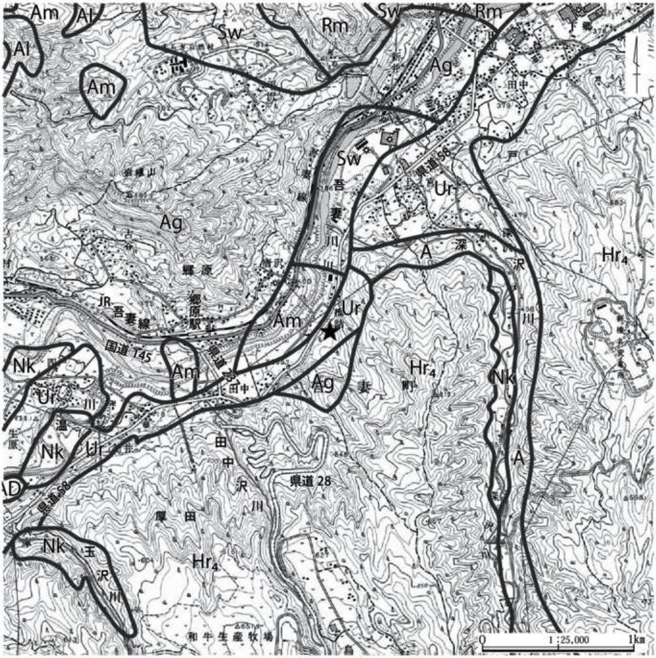
# 第２章　遺跡を廻る環境

## 第１節　地理的・地質的環境

### １　地理的環境

本遺跡は、群馬県の北西部、吾妻(あがつま)峡を境に東西に分けられる吾妻郡の東半部西寄りに在り、吾妻郡東吾妻町役場の南西2.650m、ＪＲ吾妻線郷原駅(ごうばらえき)の東850mに位置する。

本遺跡付近の北から西にかけては新第三系の山々が連なり、南から南東にかけては第四系の火山である榛名山の山麓が広がり、本遺跡は西北麓端部に位置する。本遺跡の北方では新第三系の山々を割くように、一級河川吾妻川が南東流して本遺跡付近に至り、その下流では新第三系の山々と榛名山の間を、本遺跡の西側ではつづら折




第６図　地理・地質図(1/25,000、国土地理院2.5万分の１地勢図「群馬原町」を使用)

れに蛇行しながら東流し、東側では北東方向に流下する。本遺跡の東側には深沢川、西側には田中沢川が共に北北西方向に流れて吾妻川に流入する。第6図左下(南西)には温川(ぬるがわ)が右上(北東)方向に流れて吾妻川に合流し、玉沢川が概ね北西に流れて温川に合流する。吾妻川と温川沿いには段丘が形成され、ここに集落が点在し耕地が造られる。また第6図の吾妻川の右岸右側(南東)には工場も建設されている。

本遺跡のすぐ北側には群馬県道58号中之条東吾妻線がおおむね東西に走行し、本遺跡の南西325mにある田中交差点で榛名山頂から下りてくる県道28号高崎東吾妻線、北側から吾妻川を渡河してくる県道237号郷原停車場線と接続する。また吾妻川左岸(北側)では当該地付近の新第三系山々のピークの一つである岩櫃山が南側にせり出すように在り、その山麓を巻くようにＪＲ吾妻線が北東から入って西北西方向に抜けている。その最も南に押し下げられた位置に、郷原駅が在る。またＪＲ吾妻線の南側を国道145号が並走し、郷原駅のすぐ西側の郷原交差点で南から来る県道237号と接続する。なお、岩櫃山の西面は断崖となっている。

## 2　地質的環境

第6図に示した範囲では、その左上(北西側)には新第三系の山々が連なる。これらを形成する新生代新第三紀中期中新世の地層ではサバ化石等を含む凝灰質砂岩と泥岩の互層である沢渡層(Sw)がある。後期中新世のものではプロピライト、暮坂溶岩と呼ばれた陸成の火山岩類である吾妻層(Ag)があり、その下位から郷原下位凝灰角礫岩部層、郷原上部凝灰角礫岩部層、吾妻山(かづまやま)溶岩・凝灰角礫岩部層が堆積する。また岩櫃山は吾妻層の山体である。これらの地質層の間には、安山岩溶岩(Al)、安山岩岩体(AM)、流紋岩ないしデイサイト岩体(Rm)が見られる。

一方、第6図の右下(南東側)は新生代第四紀中期更新世の岩屑なだれ堆積物を挟む軽石流堆積物から成る榛名火山第4期の火砕流(Hr 4)が広がり、吾妻川右岸の後背地や温川や深沢川沿いには平行葉理のシルト層主体の中之条湖成層(Nk)が在る。そして後期更新世のものでは上部ローム堆積の段丘(Ur)、後期更新世から完新世の沖積(A)が見られる。

【参考文献】
群馬県地質図作成委員会(1999)『群馬県10万分の1地質図』、内外地図
富岡市(1987)『富岡市史　自然編　原始・古代・中世編』

# 第2節　歴史的環境

第7図に示した本遺跡付近の周知の遺跡は、吾妻川や温川、深沢川沿いの平坦地とこれに接する山地の端部、そして岩櫃山周辺にほぼ限られる。以下に時代毎の概要を記す。

## 1　旧石器時代

第7図で図示した範囲も含め東吾妻町域での旧石器時代の遺跡は確認されていない。

## 2　縄文時代

縄文時代になると、第7図の範囲に遺跡の分布域が広がる。草創期の調査例は確認できないが、早期の遺跡としては新井遺跡(21)で竪穴建物3棟、前期の遺跡としては四戸遺跡(17)で前葉の集落、新井遺跡(21)で前葉～後葉の集落が調査されている。

中期の遺跡では郷原遺跡(５)で後半の竪穴建物、新井遺跡(21)で中葉～後葉の集落が調査されている。

後期では初頭の敷石建物が郷原遺跡(５)と新井遺跡(21)で調査されている。また郷原遺跡(５)からは昭和19(1944)年の長野原線(現ＪＲ吾妻線)建設時に出土した、国指定重要文化財のハート形土偶が出土している。

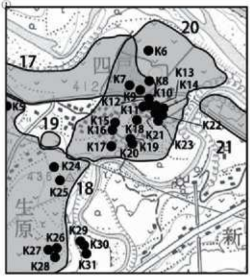
第7図の範囲に晩期の遺跡はないが、四戸遺跡(17)の西北西に近接する万木沢Ｂ遺跡等に調査例がある。

## 3　弥生時代

第7図の範囲の弥生時代の遺跡は、縄文時代より少ないが比較的広範囲に分布するが、前期の遺構・遺物の事例は確認できていない。

弥生時代の遺跡の中で特筆すべきは、岩櫃山頂近くの岩陰で調査された中期の再葬墓であり、岩櫃式土器の標識遺跡である岩櫃山鷹の巣遺跡(７)がある。また近接する幕岩岩陰遺跡(６)では焼骨が出土している。

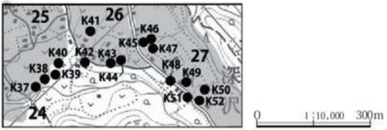
このほか四戸遺跡(17)では中期後半と後期の竪穴建物、四戸の古墳群(20)で後期の竪穴建物、新井遺跡(21)でも中期後半～後期の竪穴建物や円形周溝墓が調査され

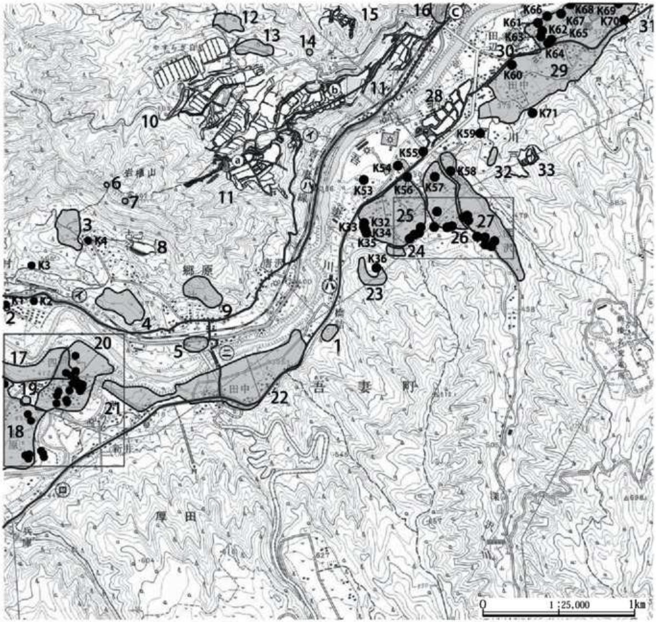



ている。

## 4　古墳時代

第７図の範囲の古墳時代の遺跡は、古墳、古墳群は吾妻川左岸（北側）では西南部にわずかに分布するのみであるが、右岸（南側）では広く分布する。




第７図　周辺遺跡図（1/25,000、部分図：1/10,000、国土地理院2.5万分の１地勢図「群馬原町」を使用）

第１表　周辺遺跡一覧

| No. | 遺跡名 | 市町村No. | 時期 | | | | | | | | 種別 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 旧石器 | 縄文 | 弥生 | 古墳 | 奈良 | 平安 | 中世 | 近世 | | |
| 1 | 厚田橋詰遺跡 | 0253 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 散布地 | |
| 2 | ぼたん塚古墳 | 0229 | | | ○ | ○ | | | | | 古墳、散布地 | |
| 3 | 古谷遺跡 | 0045 | | | ○ | | | | | | 散布地 | |
| 4 | 神馬遺跡 | 0224 | | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 散布地 | |
| 5 | 郷原遺跡 | 0013 | | ○ | | | | ○ | ○ | | 散布地、集落 | 国指定重要文化財ハート形土偶出土 |
| 6 | 幕岩岩陰遺跡 | 0217 | | | ○ | | | | | | 墓、その他 | |
| 7 | 岩櫃山鷹の巣遺跡 | 0008 | | | ○ | | | | | | 墓、その他 | |
| 8 | 潜龍院跡（古屋館） | 0079 | | | | | | | ○ | | 社寺 | 中世城館跡778-10 |
| 9 | 郷原城跡 | 0088 | | | | | | | ○ | | 城館 | |
| 10 | 岩櫃城跡北側遺構群 | 0066 | | ○ | | | | | ○ | | 集落、城館 | |
| 11 | 岩櫃城跡 | 0032 | | | | | | | ○ | | 城館 | 中世城館跡781 |
| 12 | 念仏塚北遺跡 | 0208 | | ○ | | | | | | | 集落 | |
| 13 | 念仏塚遺跡 | 0065 | | ○ | ○ | | | | | | 集落 | |
| 14 | 道心穴遺跡 | 0007 | | | ○ | | | | | | 散布地 | |
| 15 | 柳沢城跡 | 0082 | | | | | | | ○ | | 城館 | 中世城館跡783 |
| 16 | 善導寺前遺跡 | 0003 | | | ○ | | | ○ | ○ | | 散布地、墓他 | |
| 17 | 四戸遺跡 | 0119 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 集落 | 完形の奈良三彩短頸壺出土 |
| 18 | 生原遺跡 | 0070 | | | ○ | ○ | | | | | 古墳 | |
| 19 | 峰遺跡 | 0042 | | | | ○ | | | | | 散布地 | |
| 20 | 四戸の古墳群 | 0020 | | | ○ | ○ | | | | | 古墳 | |
| 21 | 新井遺跡 | 0120 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 集落 | |
| 22 | 厚田中村遺跡 | 0117 | | | | ○ | ○ | ○ | | ○ | 水田 | |
| 23 | 川戸楮原遺跡 | 0115 | | ○ | | | | | | | その他 | |
| 24 | 川戸太田遺跡 | 0251 | | | | | | ○ | | | 散布地 | |
| 25 | 上ノ宮遺跡 | 0051 | | | | ○ | | | | | 散布地 | |
| 26 | 深沢遺跡 | 0052 | | ○ | | ○ | | | | | 集落 | |
| 27 | 玉科遺跡 | 0004 | | ○ | ○ | | | | | | 散布地 | |
| 28 | 内出城跡 | 0083 | | | | | | | ○ | | 城館 | |
| 29 | 天竜遺跡 | 0218 | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | 散布地 | |
| 30 | 下郷Ａ遺跡 | 0050 | | ○ | | ○ | | | | | 散布地 | |
| 31 | 水頭Ｂ遺跡 | 0223 | | | | | ○ | ○ | ○ | | 散布地 | |
| 32 | 水上遺跡 | 0053 | | ○ | | ○ | | | | | 集落 | |
| 33 | 城峯城跡 | 0084 | | | | | | | ○ | | 城館 | |

第２表　周辺古墳一覧の１

| No. | 名称 | 墳形 | 規模(m) | 市遺跡No. | 新総覧No. |
|---|---|---|---|---|---|
| K1 | 岩島４号古墳(ぼたん塚古墳) | 円 | [17.0] | 229 | 東吾妻11 |
| K2 | ボタン古墳(岩島村３号古墳) | — | — | | 東吾妻33 |
| K3 | ののお塚古墳(岩島村２号古墳) | — | — | | 東吾妻32 |
| K4 | 綜覧：岩島村46号古墳 | 円 | — | | 東吾妻75 |
| K5 | 綜覧：岩島村33号古墳 | 円 | — | | 東吾妻58 |
| K6 | じゅうご塚古墳(岩島村25号古墳) | 円 | — | | 東吾妻50 |
| K7 | 綜覧：岩島村21号古墳 | — | — | | 東吾妻46 |
| | 四戸Ⅲ号古墳(岩島村13号古墳) | 円 | [15.0] | | 東吾妻10 |
| | 綜覧：岩島村15号古墳 | 円 | — | | 東吾妻43 |
| K8 | 綜覧：岩島村22号古墳 | 円 | — | | 東吾妻47 |
| | 綜覧：岩島村24号古墳 | 円 | — | | 東吾妻49 |
| K9 | 綜覧：岩島村14号古墳 | 円 | — | | 東吾妻42 |
| K10 | 綜覧：岩島村20号古墳 | 円 | — | | 東吾妻45 |
| K11 | 四戸Ⅱ号古墳(岩島村16号古墳) | 円 | [10.6] | | 東吾妻９ |
| K12 | 綜覧：岩島村17号古墳 | 円 | — | | 東吾妻44 |
| K13 | 四戸85番地古墳跡 | 円 | — | | 東吾妻５ |
| K14 | 四戸86番地古墳跡 | — | — | | 東吾妻４ |
| K15 | 綜覧：岩島村31号古墳 | 前方後円 | — | | 東吾妻56 |
| K16 | 綜覧：岩島村30号古墳 | — | — | | 東吾妻55 |
| K17 | 綜覧：岩島村29号古墳 | 円 | — | | 東吾妻54 |
| K18 | 綜覧：岩島村26号古墳 | 円 | — | | 東吾妻51 |
| K19 | 綜覧：岩島村27号古墳 | 円 | — | | 東吾妻52 |
| K20 | 綜覧：岩島村28号古墳 | — | — | | 東吾妻53 |
| K21 | 四戸Ⅰ号古墳(岩島村19号古墳) | 円 | [10.4] | | 東吾妻８ |
| K22 | 四戸Ⅳ号古墳 | 円 | [8.0] | | 東吾妻７ |
| K23 | 綜覧：岩島村18号古墳 | 円 | [15.5] | | 東吾妻192 |
| K24 | 綜覧：岩島村34号古墳 | — | — | | 東吾妻59 |
| K25 | 綜覧：岩島村35号古墳 | — | — | | 東吾妻60 |
| K26 | 綜覧：岩島村40号古墳 | 円 | — | | 東吾妻65 |

| No. | 名称 | 墳形 | 規模(m) | 市遺跡No. | 新総覧No. |
|---|---|---|---|---|---|
| K27 | 綜覧：岩島村39号古墳 | 円 | — | | 東吾妻64 |
| K28 | 綜覧：岩島村41号古墳 | 円 | — | | 東吾妻66 |
| K29 | 綜覧：岩島村36号古墳 | — | — | | 東吾妻61 |
| K30 | 綜覧：岩島村37号古墳 | 円 | — | | 東吾妻62 |
| K31 | 綜覧：岩島村38号古墳 | 円 | — | | 東吾妻63 |
| K32 | 綜覧：原町32号古墳 | 円 | [14.5] | | 東吾妻147 |
| K33 | 綜覧：原町33号古墳 | 円 | [18.2] | | 東吾妻148 |
| K34 | 綜覧：原町34号古墳 | 円 | [9.1] | | 東吾妻149 |
| K35 | 綜覧：原町35号古墳 | 円 | [7.3] | | 東吾妻150 |
| K36 | 綜覧：原町77号古墳 | 円 | — | | 東吾妻188 |
| K37 | 綜覧：原町39号古墳 | 円 | [9.1] | | 東吾妻154 |
| K38 | 綜覧：原町37号古墳 | 円 | [12.7] | | 東吾妻152 |
| K39 | 綜覧：原町38号古墳 | — | — | | 東吾妻153 |
| K40 | 綜覧：原町36号古墳 | 円 | [12.1] | | 東吾妻151 |
| K41 | 綜覧：原町40号古墳 | 円 | [16.4] | | 東吾妻155 |
| K42 | 綜覧：原町41号古墳 | — | — | | 東吾妻156 |
| K43 | 綜覧：原町42号古墳 | 円 | [9.1] | | 東吾妻157 |
| K44 | 岡辺Ｂ号古墳(原町43号古墳) | 円 | — | | 東吾妻15 |
| K45 | 綜覧：原町50号古墳 | 円 | [26.1] | | 東吾妻163 |
| K46 | 綜覧：原町51号古墳 | 円 | [10.0] | | 東吾妻164 |
| K47 | 綜覧：原町49号古墳 | — | — | | 東吾妻162 |
| K48 | 岡辺Ａ号古墳(原町44号古墳) | 円 | — | | 東吾妻14 |
| K49 | 綜覧：原町45号古墳 | 円 | [14.8] | | 東吾妻158 |
| K50 | 綜覧：原町46号古墳 | 円 | [10.0] | | 東吾妻159 |
| K51 | 綜覧：原町48号古墳 | — | — | | 東吾妻161 |
| K52 | 綜覧：原町47号古墳 | — | — | | 東吾妻160 |
| K53 | 綜覧：原町31号古墳 | 円 | [18.2] | | 東吾妻146 |
| K54 | 綜覧：原町29号古墳 | 円 | [18.2] | | 東吾妻144 |
| K55 | 綜覧：原町58号古墳 | 円 | [10.0] | | 東吾妻171 |
| K56 | 綜覧：原町30号古墳 | 円 | [11.2] | | 東吾妻145 |

第２表　周辺古墳一覧の２

| No. | 名称 | 墳形 | 規模(m) | 市遺跡No. | 新総覧No. |
|---|---|---|---|---|---|
| K57 | 綜覧：原町53号古墳 | 円 | [10.9] | | 東吾妻166 |
| K58 | 綜覧：原町52号古墳 | 円 | ― | | 東吾妻165 |
| K59 | 綜覧：原町59号古墳 | ― | ― | | 東吾妻172 |
| K60 | 綜覧：原町61号古墳 | ― | ― | | 東吾妻174 |
| K61 | 綜覧：原町66号古墳 | ― | ― | | 東吾妻179 |
| K62 | 綜覧：原町65号古墳 | ― | ― | | 東吾妻178 |
| K63 | 綜覧：原町64号古墳 | 円 | ― | | 東吾妻177 |
| K64 | 綜覧：原町63号古墳 | 円 | [14.8] | | 東吾妻176 |
| K65 | 綜覧：原町62号古墳 | 円 | [37.9] | | 東吾妻175 |
| K66 | 綜覧：原町68号古墳 | ― | ― | | 東吾妻181 |
| K67 | 綜覧：原町69号古墳 | ― | ― | | 東吾妻182 |
| K68 | 綜覧：原町70号古墳 | 円 | [27.3] | | 東吾妻183 |
| K69 | 綜覧：原町73号古墳 | 円 | [19.7] | | 東吾妻185 |
| K70 | 綜覧：原町78号古墳 | 円 | ― | | 東吾妻189 |
| K71 | 綜覧：原町60号古墳 | ― | ― | | 東吾妻173 |

前期の遺跡では、新井遺跡(21)では４基の方形周溝墓を調査している。

古墳は第７図の範囲で74基を数えた。これらは小型で、墳丘の形態が確認できる53基のうち52基は円墳で、前方後円墳とされた。岩島村31号古墳(K15)も円墳の可能性が高い。これらの古墳は東吾妻町矢倉(やぐら)で４基、同町三島で四戸の古墳群(20)に含まれる18基(K6 ～ K23)を含む30基、同町川戸で38基と東接する同町金井で１基があり、吾妻川右岸では東西２グループの群集墳として把握される。このうち岩島４号古墳(K1)・岩島村26号古墳(K18)・岩島村27号古墳(K19)・岩島村37号古墳(K30)はいずれも円墳で横穴式石室を有し、岩島４号古墳(K1)は発掘調査による二段築造で７世紀前半の所産として報告されている。また四戸Ⅲ号古墳(K7)・四戸Ⅰ号古墳(K21)・四戸Ⅳ号古墳(K22)はいずれも円墳で６世紀前半中頃の片袖型横穴式石室である。

集落は四戸遺跡(17)、四戸の古墳群(20)、新井遺跡(21)で前期から後期のものが確認、調査されている。また本遺跡の西側に近接する厚田中村遺跡(22)で６世初頭の榛名山二ッ岳の噴火で噴出した火山灰(Hr-FA)に覆われた、極小区画水田址を調査している。

## 5　奈良・平安時代

律令期において、本遺跡は吾妻郡に属していたが、吾妻郡に在る長田(なかた)・伊参(いさま)・太田の３郷(里)のうち、本遺跡付近は太田郷に比定されている。

第７図の範囲で律令期の遺跡は山岳地帯を除く地域に散布するものの、奈良時代の遺跡は本遺跡(１)を含め神馬遺跡(４)、四戸遺跡(17)、新井遺跡(21)、厚田中村遺跡(22)、天竜遺跡(29)、水頭Ｂ遺跡(31)の７遺跡に過ぎず、平安時代の遺跡もこれに郷原遺跡(５)、善導寺前遺跡(16)、川戸太田遺跡(24)の３遺跡が加わるに過ぎない。なお、第７図の右上欄外に７世紀創建の金井廃寺がある。

四戸遺跡(17)では９世紀を中心とする飛鳥時代から平安時代の集落が調査され、完形に近い奈良三彩の短頸壺が出土しており、新井遺跡(21)では９世紀の集落を調査している。また生産址としては厚田中村遺跡(22)で天仁元(1108)年の浅間山の噴火に伴うAs-B軽石で埋没した水田址が確認され、四戸遺跡(17)ではAs-B軽石で埋没した畑のサク跡を調査している。

## 6　中世

鎌倉時代に吾妻太郎の存在が吾妻鑑により知られているが、その本拠地は確認されていない。

室町時代に入ると、藤原系の地衆齋藤氏が岩下衆を率いて、第７図の左側欄外の吾妻川左岸山上に在る岩下城を拠点に吾妻郡東半部を中心に支配したが、第７図では吾妻川右岸の左右自然堤防上に齋藤氏に与力した秋間氏の内出城跡(28)が在る。また第７図の中上部に在る岩櫃城(11)は上野を代表する大規模城郭の一つで、『加沢記』には応永12 (1405)年の齋藤憲行の築城とあるが、越後上杉方の嶽山城に四万川を挟んで対峙する城として取り立てたという説もある(齋藤真一2002)。岩櫃城は城の南西部に主郭を含む実城(11ⓐ)があり、北側に防御遺構群(10)、北東側に柳沢城(15)、南西側に郷原城(９)が築かれる城郭群である。岩櫃城はその後、真田の城となるが、近世初頭に破却され、城下平川戸(11ⓑ)は現在の市街地である原町(ⓒ)に移転した。このほか城の西側岩櫃山の断崖下に武田氏没落時に真田昌幸が武田勝頼を迎え入れようとしたという伝承のある潜龍院跡(古屋館、８)や、榛名山麓の尾根上築かれた城主不詳の城峯城跡(33)が在る。

一方、戦国期の武田信玄の上野侵攻に伴い、信濃小県と上野沼田を繋ぐ、４本の所謂真田道が設定されたが、このうち現在の国道145号付近を概ね並走する赤岩通り(㋐)と現在の県道58号線から大戸を経由で国道406号を

通る大戸通(㋺)があった。このうち赤岩通り(㋑)は岩櫃城(11)に取り込まれ、同城の城下町に当たる平川戸(11ⓑ)を通過している。

このほか四戸遺跡(17)で掘立柱建物と土壙墓、四戸の古墳群(20)で土壙墓を調査している。

## 7　近世

第７図の範囲の近世の集落は、吾妻川右岸(南部)では西側より三島村、厚田村、川戸村、吾妻川左岸での同じく郷原村、原町があった。これらの集落は戦国時代末期は信州真田領であったが、引き続き三島村は明暦３(1657)年以来、他は元和９(1623)年以来沼田藩領であり、天和元(1681)年、真田氏が改易になって以降は幕領あるいは旗本領となっている。

また県道58号の前身の道路は、中世に大戸通(㋺)であった第７図左下方の大戸村から来る信濃往完の支道であり右方の川戸村から来る越後往還の支道(㋩)がある。この街道から20km東の三国街道杢ヶ橋関が渡河できない場合吾妻川渡河の唯一の橋脚として、厚田村から対岸の郷原村に長須橋(ちょうずばし、万年橋、㊂)が架橋されていた。長須橋の架け替えは郷原・矢倉・岩下・松尾・厚田の各村が普請を担っていた。万年橋からは中世の赤岩通り(㋑)から分岐して東に抜け、原町を経由して三国街道に向かう越後往還の支道が通っていた。

発掘調査では、天明３(1783)年の浅間山噴火に伴う泥流で埋没した水田、畑、溝等を厚田中村遺跡(22)で調査している。

【参考文献】

吾妻町教育委員会社会教育課(1994)『岩櫃城跡北側遺構群遺跡』
吾妻町教育委員会社会(1985)『郷原遺跡』
吾妻町教育委員会社会(1992)『東吾妻町指定岩櫃城跡』
吾妻町教育委員会社会(1992)『岩櫃城跡北側遺構群遺跡』
吾妻町教育委員会社会(1998)『郷原遺跡』
吾妻町教育委員会社会(2002)『岩島４号墳』
飯森康広(2022)『戦国期上野の城・紛争と地域変容』
群馬県 <https://www2.wagmap.jp/pref-gunma/Map?mpx=138.81636912005743&mpy=36.52699105133737&bsw=806&bsh=637&mid=1601&isi=> 2023年12月11日参照
群馬県教育委員会(1983)『吾妻の諸街道』
群馬県教育委員会(1988)『群馬県の中世城館』
群馬県教育委員会(2017)『群馬県古墳総覧』
群馬県文化事業振興会(1985)『上野国郡村誌　11　吾妻郡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2018)『厚田中村遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2020)『四戸遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2020)『四戸の古墳群』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団(2020)『新井遺跡』
齋藤慎一(2002)『中世東国の領域と城館』、pp131-157、吉川弘文館
原町誌編纂委員会(1960)『原町誌』、群馬県吾妻郡吾妻町
東吾妻町教育委員会４(2018)『東吾妻町指定史跡　岩櫃城　総合調査報告書』
山崎一(1978)『群馬県古城塁址の研究　下巻』

1　郷原遺跡(JR郷原駅とハート形土偶説明板、実際の出土地は西側50m、南から)

2　四戸古墳群石室(岩島村14号墳か、東から)

3　岩櫃城主郭(左手櫓台、西から)

# 第３章　発見された遺構と遺物

## 第１節　１面(中世以降)の遺構と遺物

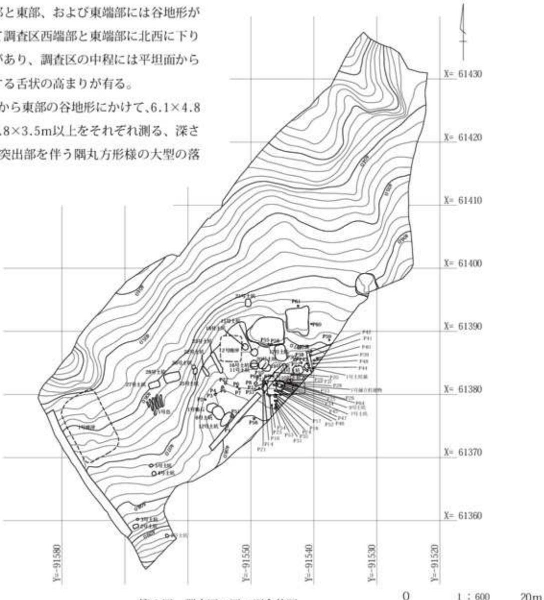
### １　１面の調査概要

本遺跡の調査区は北西方向に向かって傾斜する地形に在るが、１面の南西隅部は勾配率25％程を測る傾斜地であり、中南部は勾配率７％程の緩傾斜地であり、他は緩急はあるものの総じて勾配率15％程の斜面である。本稿では、調査区中南部の緩傾斜地は他の「斜面」に対して平坦に近いことから、「平坦面」と仮称する。

斜面地の(北)西部と東部、および東端部には谷地形があり、これに沿って調査区西端部と東端部に北西に下りる尾根上の高まりがあり、調査区の中程には平坦面から北に向かって傾斜する舌状の高まりが有る。

また、平坦面東端から東部の谷地形にかけて、6.1×4.8m、4.6×3.7m、3.8×3.5m以上をそれぞれ測る、深さ0.20～0.40m程の突出部を伴う隅丸方形様の大型の落ち込みが見られる。

１面は中世面として、As-Kk一次堆積層(標準Ⅵ層)下面を遺構確認面として発掘調査を実施した。１面では調査区南西部から平坦面北側の斜面と平坦面に大小の土坑26基が掘削され、平坦面に掘立柱建物１棟、土壙墓１基、ピット55基、集石１基、溝１条を調査した。また北西斜面に畑の一部を調査したほか、調査区西部の谷地形の谷頭に当たる箇所と平坦面北端部に、製鉄関連遺構は確認されなかったが、鉄滓多数出土した廃滓２か所を確認、調査した。１面の遺構は中世以降のもので、時期特定できた遺構は個々にその時期を記した。




第８図　調査区１区１面全体図

## ２　掘立柱建物

**１号掘立柱建物**(第９図、PL．３)

**概要**　本建物は６基の柱穴から成る梁間一間型の掘立柱建物として発掘調査されているが、整理段階で北東の36号ピット(本建物Ｐ７)も加わると判断したものである。建物の南東側は調査区外に出るため、全容は確認できなかった。

**位置**　本建物は調査区中央南西寄り、ピット群の中に所在し、61379～61382－-91541～-91547グリッドに位置する。

**重複**　本建物は７～10号土坑、16・17・25・26・28・33・34・37・45・46・47・52号ピットと重複するが、本建物が８号土坑を切る以外は、新旧関係を特定することはできなかった。

**規模**　〔範囲〕長さ：6.34m　幅：2.70m

〔建物規模〕長さ：5.92m　幅：2.13m

〔Ｐ１〕　径：0.29×0.24m　深さ：0.35m

〔Ｐ２〕　径：[0.48]×0.38m　深さ：0.34m

〔Ｐ３〕　径：0.35×0.31m　深さ：0.40m

〔Ｐ４〕　径：0.38×0.36m　深さ：0.41m

〔Ｐ５〕　径：0.24×0.20m　深さ：0.27m

〔Ｐ６〕　径：0.25×0.24m　深さ：0.36m

〔Ｐ７〕　径：0.40×0.38m　深さ：0.40m

〔柱間〕

(桁間)　平均：1.984m

Ｐ２－Ｐ３　：2.04m

Ｐ３－Ｐ４　：1.92m

Ｐ４－Ｐ７　：1.97m

Ｐ１－Ｐ６　：2.08m

Ｐ５－Ｐ６　：1.91m

(梁間)　平均：2.09m

Ｐ１－Ｐ２　：1.89m

Ｐ３－Ｐ６　：2.21m

Ｐ４－Ｐ５　：2.17m

**埋土**　いずれのピットもAs-Kkとロームを含むＰ１～３・６・７は黒褐色土、Ｐ４・５は暗褐色土等で埋没する。

**構造**　〔規格〕上述のように本建物は南東側が調査区外に出るため全容は確認できず、また東側に更に延伸しているか否かも確認できなかった。

調査範囲において本建物は１×３間の建物として把握されるが、梁間の規模は通例の梁間一間型の建物に対して狭い。本建物の主軸方向はN88°Eで、棟はおおむね東西を向く。

〔柱穴〕柱の規模は全体として北列のものが南列より1.6倍程大きい。

(形態)柱穴のプランはＰ１・２・３は楕円形、Ｐ４・６・７は隅丸長方形、Ｐ５は隅丸三角形を呈する。底面形はＰ１平底、Ｐ２・４～７は丸底、Ｐ３は尖底を呈する。

(柱痕)いずれの柱穴も、柱痕は確認されなかった。

(柱)柱痕や柱による底面の塑性変形は確認できず、従って柱の規格も確認できなかった。

**遺物**　本建物からの遺物の出土は確認されなかった。

**所見**　本建物の時期は特定できなかったが、梁間一間型の規格であることから中世の所産と想定される。

また建物の規模から推して、本建物は付属屋であったものと想定される。なお、細かい用途は想定されなかった。

なお北側列と南側列の柱穴の規格の違いは、どのような理由によるものかは把握できなかったが、北側に緩やかに傾斜する地形、風向きや、棟が北側に偏っていた等の構造によるものである等の可能性が考慮される。

## ３　土壙墓

**１号土壙墓**(第10図、PL．４)

**概要**　本土壙墓は南西側と北東の一部が壊されていたため、全容は確認できなかった。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面の南東寄りに在り、61383～61384－-91540～-91541グリッドに位置する。

**重複**　本土壙墓は１号溝と重複するが、新旧関係は特定できなかった。

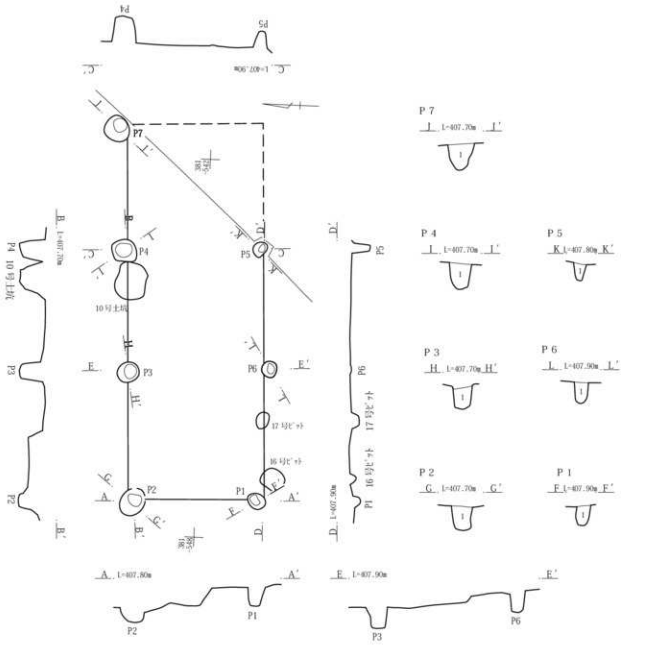
**規模**　長さ：(0.84)m　幅：0.80m　深さ：0.22m

**埋土**　下位はAs-Kkと少量の黒色粘質土含む黒褐色土、上位はAs-Kk含み鉄分沈着する明赤褐色土で埋没する。

**構造**　本土壙墓の主軸はN23°Eを向く。

本土壙墓のプランは楕円形を呈し、壁面はやや開いて、底面形は平底状を呈する。

**埋葬方法と人骨**　本土坑の下位層からは人骨が出土した。人骨の頭位は北北東を向き、体位は西北西を向く横



1号掘立柱建物Ｐ１
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

1号掘立柱建物Ｐ２
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石・ロームを少量含む

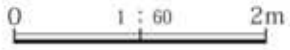
1号掘立柱建物Ｐ３
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

1号掘立柱建物Ｐ４
1　暗褐色土(10YR3/3)：しまり弱い。地山黄橙色土(ローム)を多量、小石、As-Kkを少量含む

1号掘立柱建物Ｐ５
1　暗褐色土(10YR3/3)：小石、As-Kk、地山黄橙色土(ローム)を少量含む

1号掘立柱建物Ｐ６
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。少し粘性でしまりあり。小石・炭化物を少量含む

1号掘立柱建物Ｐ7
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。しまりあり。小石を少量含む



第９図　１号掘立柱建物

臥屈葬で埋葬されていた。

　被葬者は熟年(40 ～ 59歳)程度の男性の可能性が高く、その鑑定所見は第４章(47 ～ 50頁)に掲載する。

**遺物**　本土壙墓からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土壙墓の時期は埋土にAs-Kkが含まれ、その葬法がいわゆる中世土壙墓のものであることから、おおむね中世の所産と認識される。

１号土壙墓
1　明赤褐色土(10YR5/6)：As-Kk混土。鉄分が沈着する
2　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。黒色粘質土を少量含み、骨片が混在する

0　1：40　1m

第10図　１号土壙墓

## 4　土坑

**１号土坑**(第11図、PL．5)

**概要**　本土坑は勾配率25％の傾斜地に掘削された小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区南西隅部に在り、61357－-91563グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：0.56m　幅：0.44m　深さ：0.43m

**埋土**　浅黄橙色(土)含むしまり弱い暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN43°　Wを向く。

　本土坑の確認面のプランは水滴形を呈し、底面は北側に偏り、そのプランは楕円形を呈する。地山の傾斜面に伴う礫が表出し、底面形は尖底状を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかった。また上述のように本土坑からは縄文土器が出土しているものの、調査面から推して本土坑の時期のものとは認められない。

　また本土坑の掘削意図も特定できなかった。

**２号土坑**(第11図、PL．5)

**概要**　本土坑は勾配率が25％から14％に減じた傾斜地に掘削された小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区南西部に在り、61358 ～ 61359－-91567 ～ -91568グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、北側に３号土坑が近接して在る。

**規模**　長さ：0.87m　幅：0.64m　深さ：0.30m

**埋土**　浅黄橙色(土)多量に含むしまり弱いにぶい黄橙色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN77°　Eを向く。

　本土坑の確認面のプランは北西部を除く３隅部が突出する隅丸長方形を呈し、掘削形態は箱形を呈し、底面形は平底でそのプランは隅丸の杏形を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定されなかった。

３号土坑(第11図、PL．５)

**概要**　本土坑は勾配率が25％から14％に減じた傾斜地に掘削された小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区南西部に在り、61360－-91567～-91568グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、南側に２号土坑が近接して在る。

**規模**　長さ：0.42m　幅：0.30m　深さ：0.16m

**埋土**　浅黄橙色(土)含むしまり弱い暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN43°Ｅを向く。

本土坑の確認面のプランは隅丸長方形を呈し、底面形は平底で、そのプランは隅丸の半円形を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定されなかった。

４号土坑(第11図、PL．５)

**概要**　本土坑は勾配率14％程の傾斜地に掘削された、小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区南西部に在り、61367－-91565グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、北側に５号土坑が近接して在る。

**規模**　長さ：0.66m　幅：0.60m　深さ：0.31m

**埋土**　小礫含みやや粘質でしまり弱い黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN45°Ｅを向く。

本土坑の確認面のプランはやや楕円形に近い隅丸長方形を呈し、掘削形態は漏斗形で丸底を呈し、そのプランは隅丸三角形を呈する。底面に径0.24m、深さ0.06m以上の窪みを伴う。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかった。

本土坑の掘削意図は特定されなかったが、底面の窪みは樹木の根の痕跡の可能性が考えられる。

５号土坑(第11図、PL．５)

**概要**　本土坑は勾配率14％程の傾斜地に掘削された小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区南西部に在り、61368－-91565～-91566グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、南側に４号土坑が近接して在る。

**規模**　長さ：0.56m　幅：0.41m　深さ：0.21m

**埋土**　小礫含みやや粘質でしまり弱い黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN50°Ｅを向く。

本土坑の確認面のプランは隅丸長方形を呈し、底面形は丸底を呈して、そのプランは偏楕円形を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定されなかった。

６号土坑(第11図、PL．５)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で大型の土坑である。南側端部は重複する土坑と一括で掘削されているため、確認できていない。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面西寄りに在り、61376～61378－-91554～-91556グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は12号土坑・１号集石と重複するが、１号集石より新しいものの、12号土坑との新旧関係は特定できなかった。

**規模**　長さ：(2.16)m　幅：1.72m　深さ：0.40m

**埋土**　黄橙色土と小礫含む灰黄褐色土、上位に小礫、特に下位に白色・橙色粒多く含むにぶい黄褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN42°Ｗを向く。

本土坑のプランは確認面･底面共に隅丸長方形を呈し、底面形は平底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは縄文土器片と黒曜石片各１点、鉄滓７点が出土した。

**所見**　調査面と出土遺物の時期には乖離があり、本土坑の時期は特定できなかった。

また本土坑の掘削意図も特定されなかった。

７号土坑(第12図、PL．５)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面のやや東寄りに在り、61380～61382－-91544～-91546グリッドに位置す

る。

**重複**　本土坑は１号掘立柱建物(Ｐ３)、33･34･46号ピットと重複するが、いずれの遺構に対しても本土坑の方が新しい。

**規模**　長さ：1.52m　幅：1.40m　深さ：0.20m

**埋土**　ローム・小礫含み、粘性少しある黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はＮ10°Ｗを向く。

本土坑のプランは確認面、底面共に円形に近い隅丸六角形を呈する。底面形は平底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは内耳鍋片、ガラス質のスラグを含む鉄滓３点、石器の剥片が出土した。

**所見**　本土坑の時期は、重複遺構から推して中世以降の所産と想定されたが、掘削意図は特定されなかった。

８号土坑(第12図、PL．５)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。過半が試掘トレンチに壊され、北西部を確認できたに過ぎなかった。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面のやや東寄りに在り、61381～61382－-91546～-91547グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は１号掘立柱建物(Ｐ２)と重複するが、本土坑の方が古い。

**規模**　長さ：(1.34)m　幅：(1.16)m　深さ：0.13m

**埋土**　共にAs-Kkとローム・礫含み粘性少しある暗褐色土と黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN81°Ｅを向く。

本土坑のプランは隅丸三角形を呈し、底面形は平底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは鉄滓１点の出土があった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。

９号土坑(第12図、PL．６・18)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。南東側が調査区外に出るため、全容は確認できなかった。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面のやや東寄りの南端に在り、61380～61381－-91542～-91543グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：(1.12)m　幅：(1.04)m　深さ：0.19m

**埋土**　As-Kkとローム・礫含み粘性少しある黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はＮ11°Ｅを向く。

本土坑のプランは、確認面・底面共に西縁が内湾する楕円形のプランを呈し、底面形は平底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは内耳鍋片(１)の出土が見られた。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は特定されなかった。

10号土坑(第12図、PL．６)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面の東寄りに在り、61381～61382－-91543～-91544グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は１号掘立柱建物(Ｐ４)と37号ピットと重複するが、共に新旧関係は特定できなかった。

**規模**　長さ：0.58m　幅：0.48m　深さ：0.37m

**埋土**　As-Kkとローム・礫含み少ししまりある黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はＮ83°Ｗを向く。

本土坑の確認面のプランは南北縁が多少内湾する隅丸長方形を呈し、底面形は丸底で、そのプランは円形を呈する。また底部の北西側に浅い掘り込みがあるが、その底面高は底部高から0.01m高い。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

また本土坑の掘削意図は特定されなかった。

11号土坑(第13図、PL．６)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部に在り、61384－-91548～-91550グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は16号土坑と重複し、これを切っている。

**規模**　長さ：1.14m　幅：0.59m　深さ：0.57m

**埋土**　As-Kkとローム含み少し粘性ある黒褐色土で埋没

する。

**構造**　本土坑の主軸はN87°　Eを向く。

本土坑のプランは隅丸台形様の楕円形を呈し、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

また本土坑の掘削意図は特定されなかった。

**12号土坑**(第11図、PL．６)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面西寄りに在り、61374～61377－-91552～-91554グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は６号土坑・51号ピットと重複するが、51号ピットよりは新しいものの、６号土坑との新旧関係は特定できなかった。

**規模**　長さ：2.60m　幅：1.16m　深さ：0.33m

**埋土**　本土坑の埋土の記録は残せなかった。

**構造**　本土坑の主軸はN43°　Eを向く。

本土坑のプランは隅丸の舟形を呈し、底面形は丸底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは鉄滓５点の出土があった。

**所見**　本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定されなかった。

**13号土坑**(第13図、PL．６)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で大型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面の東寄りに在り、61383～61384－-91541～-91543グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：1.60m　幅：1.24m　深さ：0.40m

**埋土**　As-Kkとローム、小礫を含み、少し粘性ある黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN80°　Eを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からは時期の異なる土師器壺片の出土が見られた。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は特定されなかったが、その形態と時期から貯蔵穴の可能性を有する。

**15号土坑**(第13図、PL．６・18)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面北東寄りに在り、61386～61387－-91548～-91550グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：1.18m　幅：1.12m　深さ：0.20m

**埋土**　小礫と少量のAs-Kkを含む暗褐色土埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN65°　Eを向く。

本土坑は円形に近い隅丸方形のプランを呈し、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からは古瀬戸片１片(１)の出土が見られた。

**所見**　本土坑の時期は出土遺物と埋土に含まれるテフラから推して室町時代中期以前の所産と判断される。

また本土坑の掘削意図は特定されなかった。

**16号土坑**(第13図、PL．６)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面北東寄りに在り、61383～61385－-91548～-91550グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は11号土坑と重複するが、本土坑の方が古い。

**規模**　長さ：1.48m　幅：1.28m　深さ：(0.37)m

**埋土**　As-Kkとローム、小礫含み粘性のある暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN39°　Wを向く。

本土坑は楕円形に近い隅丸台形のプランを呈し、底面形は丸底である。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

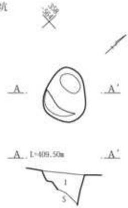
**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

また本土坑の掘削意図は特定されなかった。

**17号土坑**(第13図、PL．６)

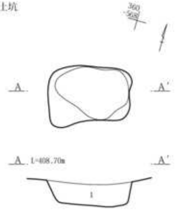
**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で大型の土坑である。

１号土坑



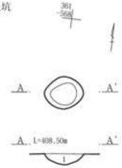

１号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)：しまり弱い。浅黄橙色粒・ブロックを含む

２号土坑



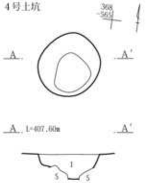

２号土坑
1　にぶい黄橙色土(10YR5/4)：しまり弱い。浅黄橙色粒・ブロックを多量に含む

３号土坑



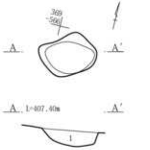

３号土坑
1　暗褐色土(10YR3/4)：しまり弱い。浅黄橙色粒・ブロックを含む

４号土坑



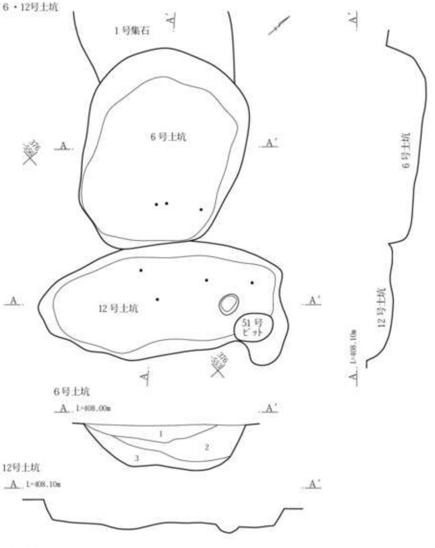

４号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)：やや粘質でしまり弱い。小石を含む

５号土坑




５号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)：やや粘質でしまり弱い。小石を含む

６・12号土坑

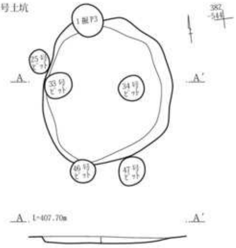



６号土坑
1　灰黄褐色土(10YR4/2)：小石、黄橙色土ブロックを含む
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)：しまりあり。細粒の白色粒、橙色粒を含む。礫が混入する
3　にぶい黄褐色土(10YR7/4)：細粒の白色粒、橙色粒を多量に含む

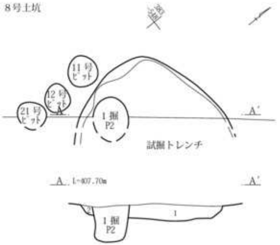
第11図　土坑(１)

0　1：40　1m

7号土坑



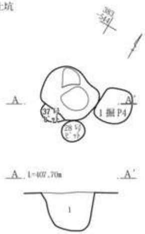

8号土坑



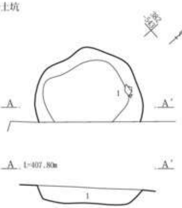

7号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)：粘性少しあり。軽石・小石・ロームを少量含む

8号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk・ローム混土。粘性少しあり。小石・ローム少量含む
2　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk・ローム混土。粘性少しあり。礫少量含む

10号土坑




9号土坑




9号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

10号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。粘性で少ししまりあり。小石・ロームを少量含む

0　1：40　1m

9号土坑

0　1：3　10cm

第12図　土坑（２）と９号土坑出土遺物

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面北東部に在り、61385～61387－-91544～-91546グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：2.64m　幅：1.84m　深さ：0.40m

**埋土**　As-Kkとローム、小礫含み少し粘性のある黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はＮ７°Ｗを向く。

本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面形は丸底状を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑の掘削意図は、掘削時期と形態から推して、貯蔵穴としての使用の可能性が考慮される。

18号土坑(第14図、PL．７)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面東寄り北端近くに在り、61387～61388－-91550～-91551グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：1.04m　幅：0.92m　深さ：0.18m

**埋土**　As-Kkを主体とし、地山ローム層土を少量含む黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN41°Wを向く。

本土坑のプランは楕円形を呈し、底面形は平底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは本土坑の時期とは異なる縄文土器片が出土した。

**所見**　本土坑の埋土に包含するAs-Kkとその含有量から推して、As-Kk降下の大治３(1128)年に近い、平安時代末期から鎌倉時代初頭の所産と想定される。

なお、本土坑の掘削意図は特定されなかった。

19号土坑(第14図、PL．７)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。他の土坑との重複と攪乱により全容は詳らかでない。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面中東寄りに在り、61383～61384－-91546～-91548グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は20号土坑と重複関係にあるが、本土坑の方が古い。

**規模**　長さ：(1.35)m　幅：(1.08)m　深さ：0.28m

**埋土**　As-Kkと少量のローム、わずかな炭化物と多量の小礫含む暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN86°Wを向く。

上述のように本土坑の全容は確認できていないが、本土坑は隅丸長方形のプランを呈するものと想定され、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

また本土坑の掘削意図は特定されなかった。

20号土坑(第14図、PL．７)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。他の土坑との重複と攪乱により全容は詳らかでない。

**位置**　本土坑は調査区中南部の平坦面中東寄りに在り、61384～61385－-91547～-91548グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は19号土坑と重複関係にあるが、本土坑の方が新しい。

**規模**　長さ：(1.57)m　幅：(0.60)m　深さ：0.60m

**埋土**　多量のローム粒含む黒褐色土としまりなくローム多量に含む黄橙色土で埋没する。底面に大型礫が散見される。

**構造**　本土坑の主軸はN34°Ｅを向く。

上述のように本土坑の全容は詳らかでないが、本土坑の確認面のプランは隅丸長方形を呈し、底面形は丸底を呈するものと想定される。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、19号土坑との重複関係から、おおむね中世の所産と認識される。

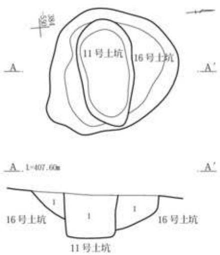
なお、本土坑の掘削意図は特定されなかった。

21号土坑(第14図、PL．７)

**概要**　本土坑は、調査区中南部の平坦面北側の勾配率28.5%の傾斜地に掘削され、北部が大きく削られる中型の土坑である。

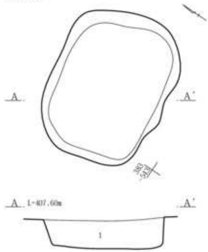
**位置**　本土坑は調査区中央部、調査区中南部の平坦面北

11・16号土坑



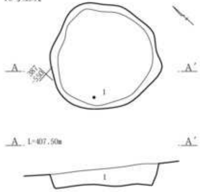

11号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む
16号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk・ローム混土。粘性あり。小石を少量含む

13号土坑



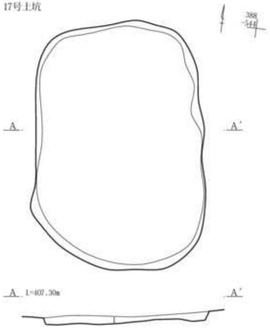

13号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。粘性少しあり。小石・ロームを少量含む

15号土坑



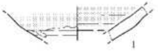

15号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)：小石、As-Kkを少量含む。地山礫が混入する

17号土坑




17号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

15号土坑




0　1：3　10cm

0　1：40　1m

第13図　土坑(３)と15号土坑出土遺物

東の斜面に在り、61393～61395－-91549～-91550グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：1.17m　幅：0.90m　深さ：0.22m

**埋土**　As-Kk・ローム・小礫含む黒褐色土と暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN3°Wを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑はその時期と形態、規模から推して、貯蔵穴の可能性が考慮される。

22号土坑(第14図、PL．7)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中央部やや西寄りに在り、61382～61384－-91556～-91557グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、約2.3m間隔で東側に後述する23号土坑が平行に在る。

**規模**　長さ：1.82m　幅：0.57m　深さ：0.32m

**埋土**　As-Kkと小礫含む黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN35°Wを向く。

本土坑のプランは両端が半円形を呈する隅丸短冊形を呈し、底面形は平底状を呈する。

**遺物**　本土坑からは鉄滓2点が出土した。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑はその時期と掘削形態から推して、貯蔵穴の可能性が考慮される。

23号土坑(第15図、PL．7)

**概要**　本土坑は本遺跡の土坑の中で中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中央部やや西寄りに在り、61383～61386－-91554～-91556グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、約2.3m間隔を以て西側に前述した22号土坑が平行に在る。

**規模**　長さ：3.60m　幅：0.71m　深さ：0.58m

**埋土**　As-Kk・ローム・小礫を含む褐灰色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN30°Wを向く。

本土坑のプランは、両端が半円形状を呈する隅丸短冊形を呈し、掘削形態は箱形で底面形は平底である。

**遺物**　本土坑からは鉄滓1点が出土した。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、埋土に含まれるテフラからおおむね中世の所産と判断される。

本土坑はその時期と掘削形態から推して、貯蔵穴の可能性が考慮される。

25号土坑(第15図、PL．7)

**概要**　本土坑は、勾配率31.5%の傾斜地に掘削された小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中央部西寄りに在り、61383～61384－-91558～-91559グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は北側に26号土坑と重複するが、本土坑の方が新しい。なお本土坑と26号土坑の底面高は、0.25m程本土坑の方が高い。

**規模**　長さ：0.95m　幅：0.57m　深さ：0.27m

**埋土**　本土坑は軽石と小礫を含む黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN8°Eを向く。

本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面形は平底を呈するが、北側に向かってに14°程傾斜する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、調査面から推して概ね中世以降の所産と認識される。

また掘削意図は特定できなかった。

26号土坑(第15図、PL．7)

**概要**　本土坑は、勾配率31.5%の傾斜地に掘削された小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中央部西寄りに在り、61383～61384－-91558～-91559グリッドに位置する。

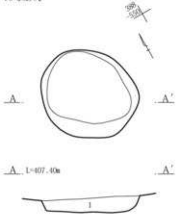
**重複**　本土坑は南側に25号土坑と重複するが、本土坑の方が古い。

**規模**　長さ：(0.60)m　幅：0.55m　深さ：0.24m

**埋土**　小礫とローム粒含む黒褐色土で埋没する。

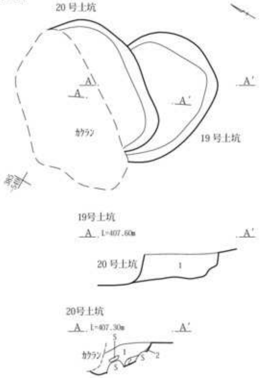
**構造**　本土坑の主軸はN19°Wを向く。

18号土坑




18号土坑
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk主体。地山黄橙色粒(ローム)を少量含む

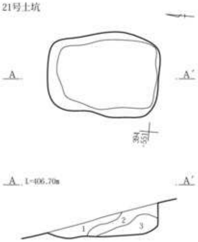
19・20号土坑




19号土坑
1　暗褐色土（10YR3/3）：小石を多量、As-Kk、地山黄橙色粒(ローム)を少量、炭化粒をわずかに含む

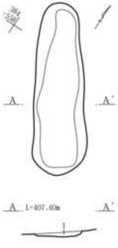
20号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)：大型の礫が混在。ローム粒を多量に含む
2　黄橙色土(10YR7/8)：しまりない。ローム粒・ブロックを多量に含む

21号土坑




21号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk・ローム混土。小石を少量含む
2　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk・ローム混土。小石を少量含む
3　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

22号土坑




22号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk、小石を少量含む

0　1：40　1m

第14図　土坑(４)

本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、調査面から推して概ね中世以降の所産と認識される。

また掘削意図は特定できなかった。

**27号土坑**(第16図、PL．８)

**概要**　本土坑は、勾配率13.3％の傾斜地に掘削された中型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区西部中東寄りに在り、61380～61382－-91564～-91566グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、東側に１ｍ程隔てて28号土坑が直列に位置している。

**規模**　長さ：1.74m　幅：1.00m　深さ：0.32m

**埋土**　小礫とシルトブロック含む黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はＮ75°Ｅを向く。

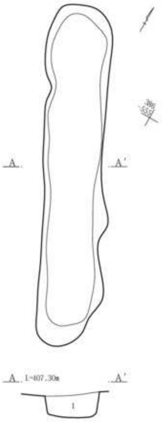
本土坑は隅丸長方形のプランを呈し、底面形は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

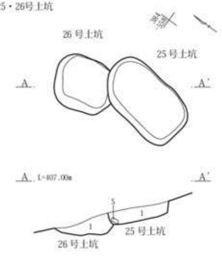
**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、その主軸方向が、南に1.2m程隔てて近接する１号畑のサクの走行に直行する方向であることから、同じ土地規制によるものと判断されることから、本土坑も中世の所産と想定される。

なお本土坑の掘削意図は、時期と規格から推して、貯蔵穴の可能性が考慮される。

23号土坑




25・26号土坑




25号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)：少ししまりあり。白色粒子、軽石・小石を少量含む

26号土坑
1　黒褐色土(10YR3/2)：少ししまりあり。ローム粒子、小石・白色粒子を少量含む

23号土坑
1　褐灰色土(10YR5/1)：As-Kk・ローム混土。小石を少量含む

0　1：40　1m

第15図　土坑(５)

**28号土坑**（第16図、PL．８）

**概要**　本土坑は勾配率13.3%の傾斜地に掘削された大型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区西部中東寄りに在り、61381～61383－-91561～-91563グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかったが、西側に近接する27号土坑と縦列に在る。

**規模**　長さ：2.55m　幅：1.45m　深さ：0.49m

**埋土**　小礫・ローム含む暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN76°Ｅを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面形は平底である。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土はなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかったが、西側に近接する27号土坑と主軸方向がほぼ同じで、縦列に在り、規模は異なるが近似した掘削形態であることから、27号土坑と同様、おおむね中世の所産として把握される。

また本土坑の掘削意図も、27号土坑と同様に貯蔵穴の可能性が考慮される。

## ５　ピット

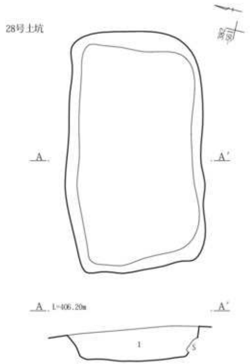
**ピット群**（第17～24図、PL．９～12・18）

**概要**　１面では調査区中南部の平坦面に61基のピットの分布が見られたが、このうち７基は１号掘立柱建物を構成するものとして既に報告した。本項ではこれ以外の54基と２面での調査であるが内耳鍋片（64ピット１）が出土した64号ピットについて述べる。

**位置・規模・形態・主軸方位**　所在グリッド・規模・形態・主軸の向きは第４表に記した。

**重複**　本ピット群のうち３号ピットと４号ピット、33・34・46・64号ピットは７号土坑、37号ピットは10号土坑、51号ピットは12号土坑、53号ピットと54号ピットが重複するが、４号ピットは３号ピットより新しく、33・34・46・64号ピットは７号土坑より古い。37号ピットと10号土坑の新旧関係は特定できなかった。51号ピットは12号土坑より古く、54号ピットは53号ピットより新しい。上記以外のピットは他の遺構との重複は見られなかった。

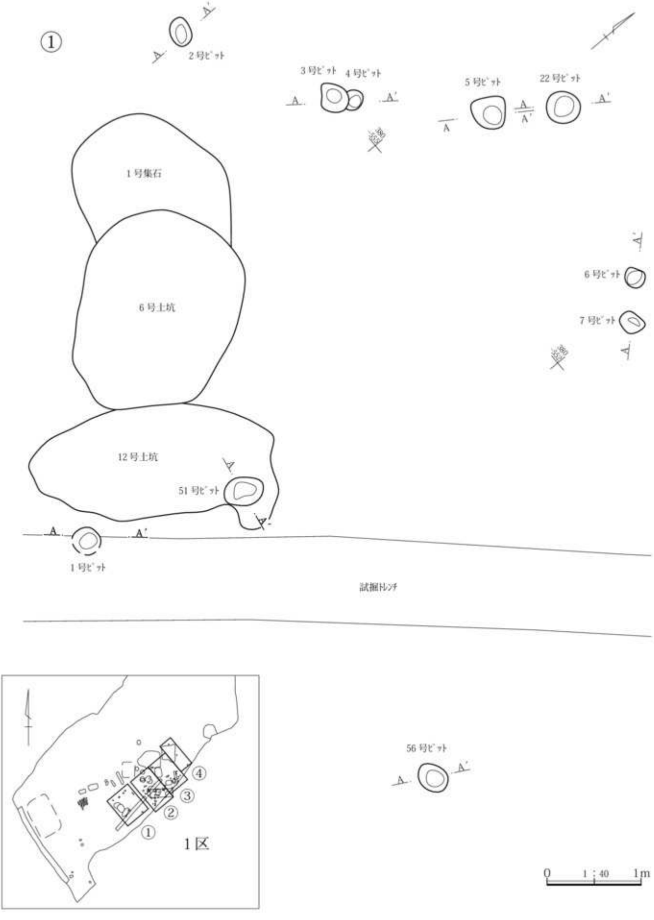
27号土坑
1　黒褐色土（10YR3/2）：少ししまりあり。小石・シルトを少量含む




28号土坑
1　暗褐色土（10YR3/3）：少ししまりあり。小石・ロームを少量含む

0　1：40　1m

第16図　土坑（６）


①
2号ピット
3号ピット
4号ピット
5号ピット
22号ピット
1号集石
6号土坑
12号土坑
51号ピット
1号ピット
6号ピット
7号ピット
試掘トレンチ
56号ピット
1区
①
②
③
④
0 1:40 1m

第17図　ピット(１)

**埋土**　各ピットの断面図を参照されたいが、３～７・22・55号ピット以外のピットの埋土にはAs-Kkが包含されていた。

**構造**　本ピット群のピットのプランは、想定されるものを含め、円形４基、楕円形20基、方形１基、隅丸方形５基、長方形１基、隅丸長方形７基、隅丸台形８基、隅丸盾形３基、隅丸三角形２基、水滴形２基、半楕円形・長瓢箪形が各１基であった。

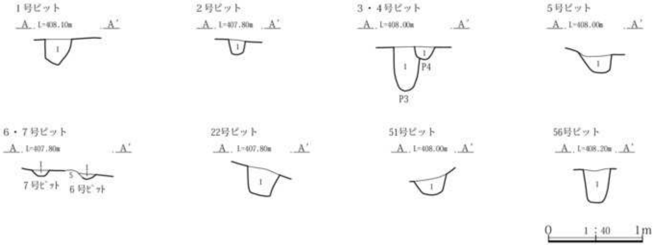
底面形は丸底が23基、平底が15基、尖底が８基、片寄の尖底が６基あり、27号ピットは平底と尖底が合わさっており、30号ピットは逆凸形を呈している。なお30号ピットの底面形は、柱の荷重による塑性変形と見られ、この場合の柱の径は0.12m（４寸）と見られる。また33号ピットの底部の東西両壁面から礫が突出しており、47号ピットの底面にも小礫が現れている。

なお、その平面規模は８号ピットと30号ピットは長・短軸長の平均が0.40m以上と古代的な企画を見せるが、他のピットは長・短軸長の平均が0.40m未満で多くが0.30m程度以下と中世的な規模であった。

**遺物**　本ピット群のうち６号ピットからはチャートの剥片、47号ピットからは鉄滓が出土し、64号ピットからは内耳鍋片（１）の出土が見られたが、他のピットからの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本ピット群のピットの多くは、埋土にAs-Kkが含まれており、As-Kkが含有しないピットもその規模が中世的であることから推して、本ピット群のピットはいずれも中世の所産と思量される。

また本ピット群の用途は30号ピットが底面形から柱穴と認識されるものの、他のピットの掘削意図を特定することはできなかった。なお底面形が尖底である１・12・24・26・45・52・56・60号ピットは、杭の打設痕の可能性がある。




1号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。しまり少しあり。小石を少量含む

2号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石・ロームを少量含む

3号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)：少し粘性あり。ローム粒子を含む

4号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：しまり少しあり。小石を少量含む

5号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：少し粘性あり。軽石・小石を少量含む

6号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：しまり少しあり。小石を少量含む

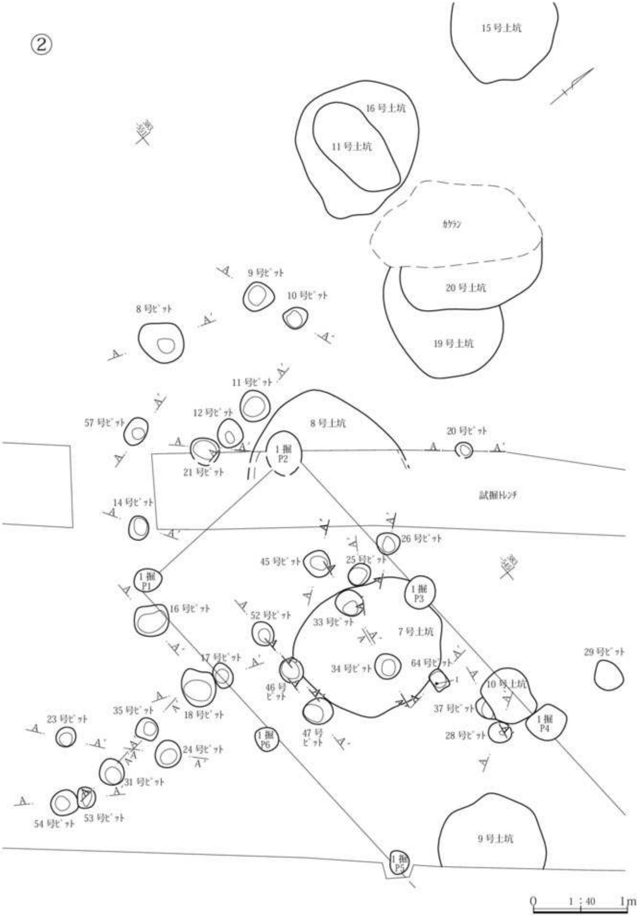
7号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：しまり少しあり。小石を少量含む

22号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：しまり少しあり。小石を少量含む

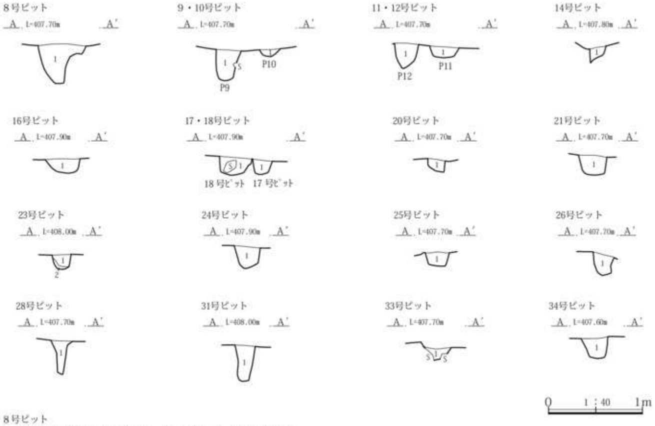
51号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。粘性あり。小石を少量含む

56号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk混土。少し粘性しまりあり。小石を少量含む

第18図　ピット（２）


②
15号土坑
16号土坑
11号土坑
カクラン
20号土坑
19号土坑
9号ピット
10号ピット
8号ピット
11号ピット
12号ピット
57号ピット
8号土坑
1掘 P2
21号ピット
20号ピット
試掘トレンチ
14号ピット
26号ピット
45号ピット
25号ピット
1掘 P1
1掘 P3
16号ピット
52号ピット
33号ピット
7号土坑
17号ピット
34号ピット
64号ピット
29号ピット
46号ピット
10号土坑
37号ピット
35号ピット
18号ピット
23号ピット
1掘 P6
47号ピット
1掘 P4
28号ピット
24号ピット
31号ピット
54号ピット
53号ピット
9号土坑
1掘 P5
0　1：40　1m

第19図　ピット(３)




8号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

9号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

10号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

11号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

12号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

14号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

16号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

17号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

18号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)：As-Kk・ローム混土。しまり少しあり。小石を少量含む

20号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

21号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

23号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む
2　にぶい黄褐色土(10YR6/4)：ローム混土

24号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

25号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

26号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

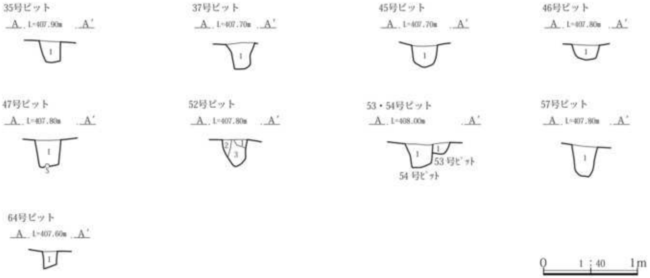
28号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：As-Kk・ローム混土。粘性あり、少ししまりあり。小石を少量含む

31号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。しまりあり。小石を少量含む

33号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)：As-Kk混土。しまりあり。小石を少量含む

34号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

第20図　ピット(４)




35号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。しまりあり。小石を少量含む

37号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

45号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk、地山黄橙色土(ローム)、小石を含む

46号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk、地山黄橙色土(ローム)、小石を含む

47号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk、地山黄橙色土(ローム)、小石を含む

52号ピット
1　にぶい黄褐色土(10YR5/4)：ローム土。黒褐色土混じり
2　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。しまりあり。小石を少量含む
3　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

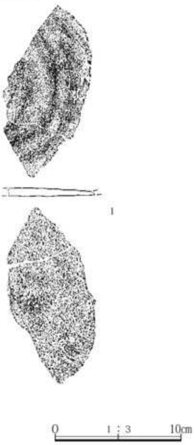
53号ピット
1　暗褐色土(10YR3/4)：As-Kk・ローム混土。少ししまりあり。小石を少量含む

54号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

57号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk混土。しまりあり。小石を少量含む。鉄分の凝集あり

64号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：少し粘性あり。ローム粒子含む

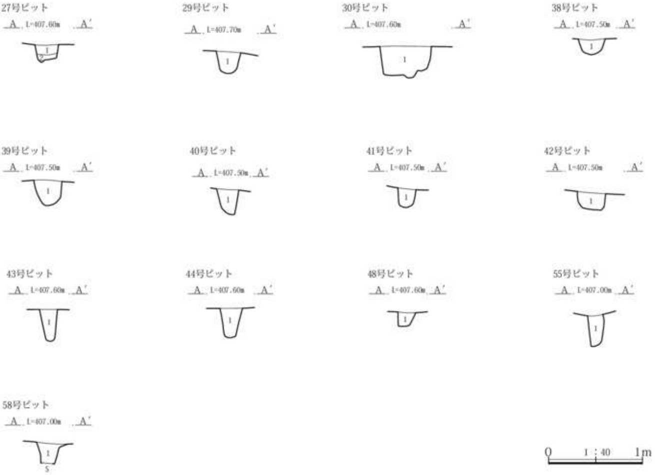
64号ピット




第21図　ピット(５)と64号ピット出土遺物

③
55 号ピット
58 号ピット
17 号土坑
30 号ピット
38 号ピット
27 号ピット
42 号ピット
29 号ピット
13 号土坑
43 号ピット
41 号ピット
1 号溝
カクラン
1 号土壙墓
カクラン
39 号ピット
40 号ピット
48 号ピット
1 掘
P7
44 号ピット
0
1 : 40
1m

第22図　ピット（６）




27号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk混土。小石を少量含む
2　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk・ローム混土

29号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

30号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

38号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk・ローム混土。小石を少量含む。少し粘性あり

39号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。しまりあり。小石を少量含む

40号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。しまりあり。小石を少量含む

41号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。しまりあり。小石を少量含む

42号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。少ししまりあり。小石を少量含む

43号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

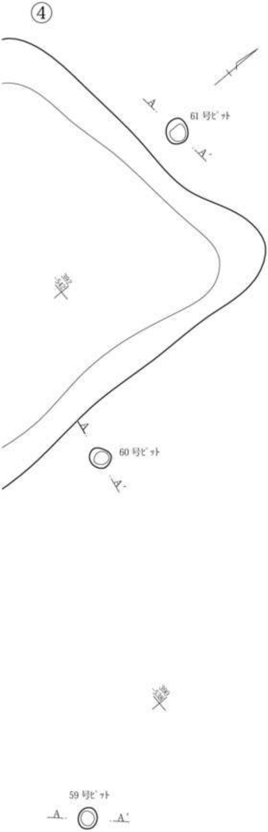
44号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。少し粘性あり、しまりあり。小石を少量含む

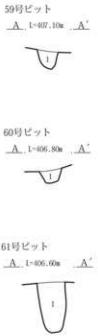
48号ピット
1　暗褐色土(10YR3/3)：As-Kk混土主体。小石を少量含む

55号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)：ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

58号ピット
1　黒褐色土(10YR2/2)：As-Kk・ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

第23図　ピット(７)

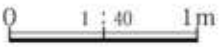



59号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：As-Kk混土。小石を少量含む。鉄分の擬集、水分による変色(赤)あり

60号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。小石を少量含む。鉄分の擬集あり

61号ピット
1　黒褐色土(10YR2/3)：AS-Kk混土。粘性あり、少ししまりあり。小石を少量含む




第24図　ピット(８)

## 6　集石

**1号集石**(第25図、PL．８・18)

**概要**　本遺構は大型の土坑状の掘り込みに、大小の礫が投棄された遺構であるが、南東部は６号土坑に壊されて全容は把握されなかった。

**位置**　本遺構は調査区中南部の平坦面の西端近くに在り、61377～61378－-91555～-91557グリッドに位置する。

**重複**　本遺構は６号土坑と重複するが、本遺構の方が古い。

**規模**　長さ：(1.64)m　幅：1.54m　深さ：0.32m

**埋土**　底面近くに軽石含みしまりあるにぶい黄褐色土、上位にAs-Kkと礫が入る灰黄褐色土で埋没する。

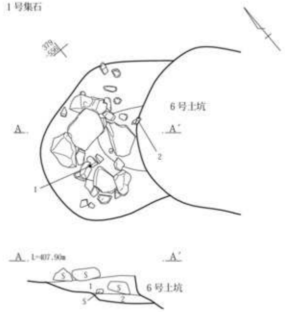
**構造**　本遺構の主軸はＮ80°　Ｗを向く。

上述のように本遺構の全容は詳らかでないが、本遺構のプランは隅丸盾形を呈し、底面形は平底状を呈する。

本遺構には長さ0.41m、幅0.30m、厚さ0.10mを測る板状の礫を最大のものとして30個程の礫が、南北1.1m、東西1.0m程の範囲に、高さ0.28m程の間に入っている。

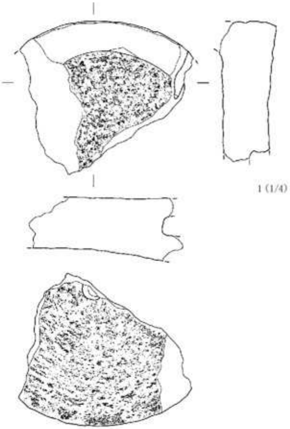
**遺物**　本遺構からは石臼(１)、敲石(２)、打製石斧の未製品、鉄滓９点が出土した。

**所見**　本遺構の時期は埋土にAs-Kkが含まれていることから、おおむね中世の所産と認識される。

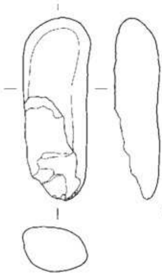



1号集石
1　灰黄褐色土(10YR4/2)：As-Kk軽石・小石・小礫を少量含む
2　にぶい黄褐色土(10YR5/4)：しまりあり。細粒白色軽石、黄橙色粒を少量含む

0　1：40　1m



1 (1/4)



2

0　1：3　10cm
0　1：4　10cm

第25図　１号集石と出土遺物

## 7　溝

**1号溝**(第26図、PL．8）

**概要**　本溝はく字状に走行する小型の溝遺構である。

南側は調査区外に出るため、全容は詳らかにできなかった。

**位置**　本溝は調査区中南部の平坦面の東端付近に位置し、61383～61386－-91540～-91541グリッドに所在する。

**重複**　本溝は１号土壙墓と重複関係にあるが、新旧関係は特定できなかった。

**規模**　確認長：3.38m　幅：0.44m　深さ：0.15m

〔主軸方位〕Ｎ０°

**埋土**　本溝はAs-Kkと小礫を含み粘性少しある暗褐色土で埋没する。

**構造**　本溝は南側からＮ20°Ｗ方向で調査区に入り、直ぐＮ12°Ｗに走行を転じて直線的に走行する。

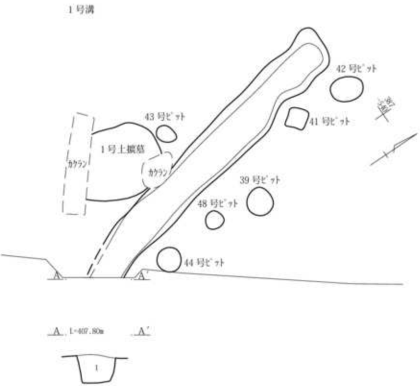
掘削形態は箱堀状を呈すし、底面形は平底状を呈する。

また溝底面は3.6％とわずかな勾配で北側に向かう。

**遺物**　本溝からの出土遺物は得られなかった。

**所見**　本溝の時期は埋土にAs-Kkが含まれることから、おおむね中世の所産と認識される。

本溝に流水の痕跡は確認できず、掘削意図も特定できなかった。




1号溝
1　暗褐色土(10YR3/4)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む




第26図　1号溝

## 8　畑

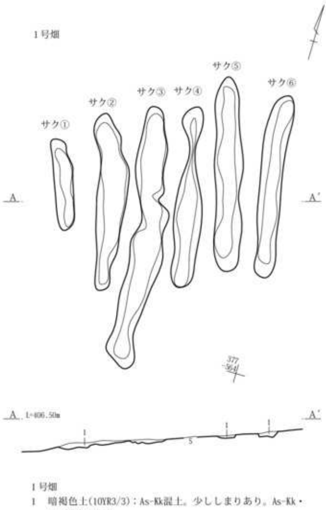
**１号畑**(第27図、PL.12・13)

**概要**　本畑は６条のサクから成るものであるが、その一部を調査したに過ぎないものと思量される。またそれぞれのサクは底部付近が残存しているに過ぎず、過半は失われている。

なお、サクは西側からサク①、サク②とサク⑥までの番号を付した。

**位置**　本畑は調査区西部の中東寄りに在り、61376～61379－-91563～-91566グリッドに位置する。

**重複**　本畑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。




第27図　１号畑

**規模**〔全体〕略東西長：2.53m　略南北長：3.1m
〔サク①〕長さ：0.95m　幅：0.20m　深さ：0.04m
〔サク②〕長さ：1.85m　幅：0.32m　深さ：0.04m
〔サク③〕長さ：2.76m　幅：0.37m　深さ：0.05m
〔サク④〕長さ：1.90m　幅：0.30m　深さ：－m
〔サク⑤〕長さ：2.05m　幅：0.28m　深さ：0.04m
〔サク⑥〕長さ：1.92m　幅：0.23m　深さ：0.05m
〔サク間〕サク①・②間：0.50m
サク②・③間：0.40m
サク③・④間：0.38m
サク④・⑤間：0.45m
サク⑤・⑥間：0.45m

**埋土**　本畑のサクはAs-Kkと小礫を含み少ししまりのある暗褐色土で埋没する。

**構造**　上述のように本畑のサクは、その底部付近を確認できたに過ぎないため、その全容は詳らかでないが、各サクの走行の方向は、サク①はN22°W、サク②はN９°Wで北端のみN27°W、サク③の南半はN２°W、北半はN12°W、サク④はN10°W、サク⑤はN15°W、サク⑥はN９°Wで、北端はN０°であり全体的には北北西－南南東を向く。

それぞれのサクは直線的に掘削されているが、サク③は逆く字状を呈し、サク②の北端は西側、サク⑥の北端は東側に傾く。掘削形態は箱堀状を呈するものと思量され、サク幅の平均は0.28mを測り底面形は平底状を呈する。

サク間は0.38～0.5mを測り、その平均は0.44mであった。

**遺物**　本畑からの遺物の出土は見られなかった。

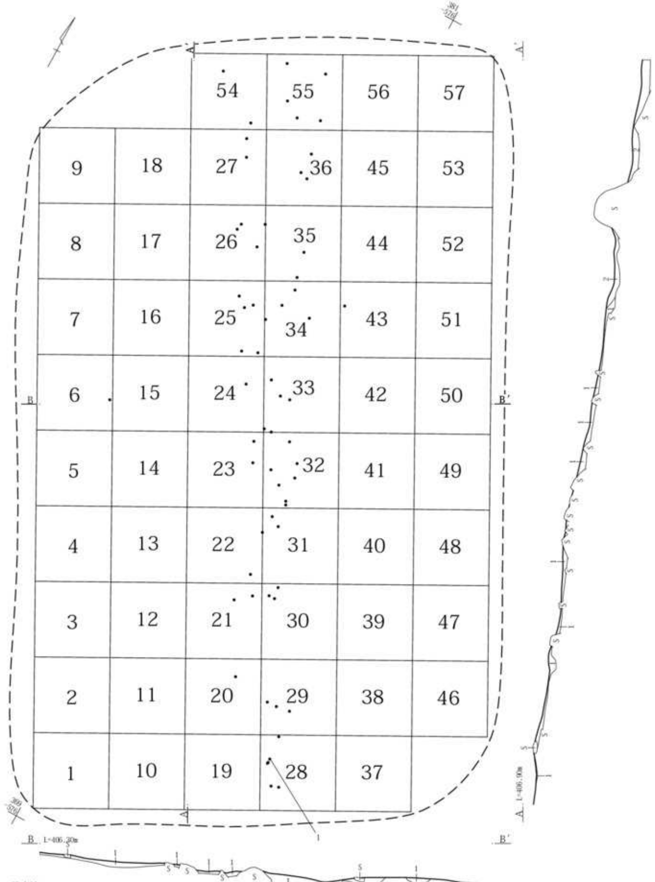
**所見**　本畑の時期は埋土に混入するテフラから推して、おおむね中世の所産と判断される。

また本畑の作物等を特定することはできず、畑の範囲を特定することもできなかった。

## 9　廃滓

**１号廃滓**(第28・29図、PL.13・18)

**概要**　本廃滓は鉄滓が多く分布したため、その分布範囲を西北西－東南東方向に10.4m、東北東－西南西方向に6.3mの隅丸長方形の区画を範囲として、鉄滓を取り上げた。




1号廃滓
1　暗褐色土（10YR3/3）：As-Kk混土
2　黒褐色土（10YR2/3）：やや粘性あり。
地山黄橙色粒（ローム）を少量含む

0　1：50　1m

第28図　１号廃滓

なお、本廃滓は製鉄遺構やその痕跡を明らかにすることはできなかった。

**位置**　本廃滓は調査区北西部の、谷地形の谷頭に相当する箇所で確認された。取上げ用グリッド設定範囲は61369～61380－-91571～-91580グリッドに所在する。

**重複**　本廃滓と他の遺構との重複は見られなかった。

**取上げ用グリッド範囲**　長：10.0m　幅：6.0m

〔グリッド方位〕N28°W

**取上げ層位**　本廃滓はAs-Kkを含む暗褐色土から取り上げた。

**鉄滓分布範囲**　鉄滓は、取上げ用グリッド北北西－南南東ライン中心線両側の19～27・54グリッドと28～36・55グリッド、および南西部の４グリッド、南部やや東寄りの39・40グリッド、北東部の44・45・56・52・53グリッドから取り上げた。

**鉄滓**　鉄滓は575点、13377.8gが出土した。このうちメタル反応のある鉄滓は23点2518.1gであった。取上げた鉄滓のデータは第３表に記した。

**所見**　本廃滓の鉄滓取上げ層位にAs-Kkが含まれることから、本廃滓はおおむね中世の所産と認識される。

本廃滓出土の鉄滓は、製鉄関連遺構に起因するものと思量されるが、製鉄遺構本体は確認されていない。

**２号廃滓**(第30図、PL.14・18)

**概要**　本廃滓は鉄滓が分布したため、その分布範囲を隅丸長方形の区画を範囲として、鉄滓を取り上げた。

なお本廃滓も、製鉄遺構やその痕跡を明らかにすることはできなかった。

**位置**　本廃滓は調査区中南部の、平坦面北端谷で確認した。取上げ用グリッド設定範囲は61385～61389－-91551～-91554グリッドに位置する。

**重複**　本廃滓と他の遺構との重複は見られなかった。

**取上げ対象範囲**　南北方向：4.0m　東西方向：3.4m

〔グリッド方位〕N０°

**取上げ層位**　本廃滓はAs-Kkと少量の小礫を含む黒褐色土を中心に、黒褐色土とロームの混土から取り上げた。

**鉄滓分布範囲**　鉄滓は、取上げ対象範囲の中北部、61386～61388－-91552～-91554グリッドの南北1.28m、東西1.68mの範囲で位置を記録して取り上げた。

**鉄滓**　鉄滓は17点、1399.2gが出土した。このうちメタル反応のある鉄滓は３点47.9gであった。取上げた鉄滓と重量等は第４表に記した。

**所見**　本廃滓の鉄滓取上げ層位にAs-Kkが含まれることから、本廃滓もおおむね中世の所産と認識される。

本廃滓出土の鉄滓も、製鉄関連遺構に起因するものと思量されるが、製鉄遺構本体は確認されていない。

第３表　１号廃滓出土鉄滓重量(羽口４点含む)

| グリッド | 重量 | グリッド | 重量 | グリッド | 重量 | グリッド | 重量 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 3 g | 25 | 1,400 g | 33 | 1,421 g | 45 | 11 g |
| 6 | 8 g | 26 | 1,311 g | 34 | 308 g | 52 | 6 g |
| 19 | 1 g | 27 | 861 g | 35 | 639 g | 53 | 65 g |
| 20 | 16 g | 28 | 241 g | 36 | 445 g | 54 | 339 g |
| 21 | 389 g | 29 | 62 g | 39 | 17 g | 55 | 485 g |
| 22 | 100 g | 30 | 251 g | 40 | 13 g | 56 | 27 g |
| 23 | 1,651 g | 31 | 187 g | 43 | 160 g | 57 | 106 g |
| 24 | 240 g | 32 | 2,138 g | 44 | 3 g | | |

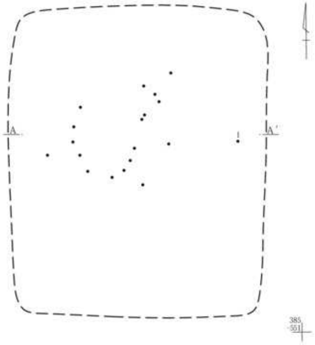
第４表　２号廃滓出土鉄滓重量

| グリッド | 重量 | グリッド | 重量 |
|---|---|---|---|
| 1 | 43 g | 9 | 88 g |
| 2 | 51 g | 10 | 17 g |
| 3 | 226 g | 11 | 130 g |
| 4 | 18 g | 12 | 236 g |
| 5 | 86 g | 13 | 223 g |
| 6 | 32 g | 14 | 78 g |
| 7 | 16 g | 15 | 68 g |
| 8 | 56 g | 16 | 11 g |

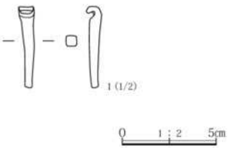
１号廃滓

1 (1/1)

第29図　１号廃滓出土遺物




２号廃滓



２号廃滓
1　黒褐色土(10YR3/1)：As-Kk混土。少ししまりあり。小石を少量含む
2　黒褐色土(10YR3/2)：ローム混土。少し粘性あり。礫を少量含む
3　黒褐色土(10YR2/2)：As-Kk混土。少し粘性あり。小石を少量含む

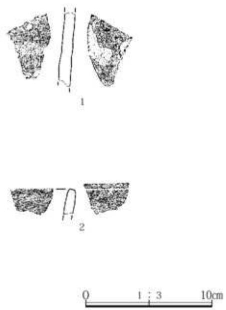
0　1：50　1m

第30図　２号廃滓と出土遺物

## 10　遺構外の出土遺物(第31図、PL.14・18)

１面では遺構外の出土遺物も散見されたが、本項では中世以降の出土遺物のみを報告し、古代以前の出土遺物については２面の遺構外の遺物として後述する。

１面の遺構外の出土遺物としては時期は特定できなかったが、古墳から平安時代の土師器片３片(15.3g)、中世の所産と見られる内耳鍋２片(１・２)があった。このほか、近世の陶磁器片５片の出土が見られた。




第31図　１面遺構外出土遺物

# 第２節　２面(縄文～平安時代)の遺構と遺物

## 1　２面の調査概要

２面の調査区の地形は１面と大差ないが、西部の谷地形は深くなり、南側に明確に伸びている。また中南部の平坦面は西側の勾配率6.5％の冠球状を呈する部分と、東側の勾配率4.8％とほぼ平坦な箇所があり、両者の間は勾配率12.8％程の緩傾斜が在る。

２面は縄文時代から平安時代の調査面として、黄橙色土(標準Ⅸ層)上面を確認面として発掘調査を実施した。２面では西側平坦面にピット６基(このうち64号ピットは１面にて報告済)、東側の平坦面にピット１基、東西の平坦面の間の緩傾斜部分に土坑２基とピット２基、西側の平坦面の北北東側斜面に土坑１基を調査した。２面の遺構は縄文～平安時代のもので、時期特定できた遺構は個々にその時期を記した。

第32図　調査区１区２面全体図

## ２　土坑

**24号土坑**(第33図、PL.15)

**概要**　本土坑は小型の土坑である。

**位置**　本土坑は調査区中南部の東西平坦面間の緩斜面に在り、61387－-91544～-91545グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：0.69m　幅：0.62m　深さ：0.32m

**埋土**　軽石・小礫・白色ローム粒含む黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN78°Eを向く。

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、壁面から底面の形態は丸底状を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定できなかった。

**29号土坑**(第33図、PL.15)

**概要**　本土坑は中型の土坑である。

**位置**　本土坑も調査区中南部の東西平坦面間の緩斜面に在り、61384～61385－-91548～-91549グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：1.24m　幅：1.08m　深さ：0.32m

**埋土**　小礫とローム粒含みやや粘性ある黒褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN61°Eを向く。

本土坑のプランは隅丸台形を呈し、底面は平底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できず、掘削意図も特定できなかった。

**30号土坑**(第33図、PL.15)

**概要**　本土坑は小型の土坑である。

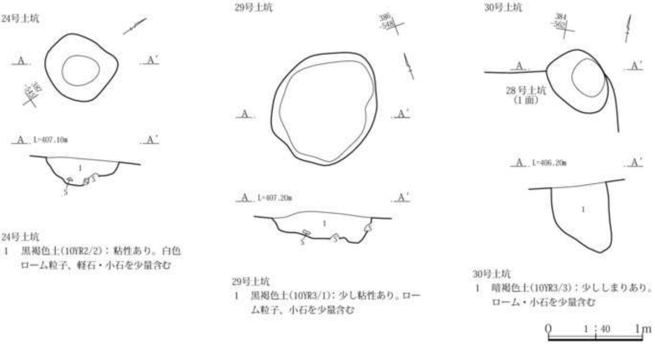
**位置**　本土坑は調査区中西部、西側平坦面北西側の斜面中、１面の28号土坑北東隅部に掘削されている。61383－-91561～-91562グリッドに位置する。

**重複**　本土坑は単独で在り、他遺構との重複は見られなかった。

**規模**　長さ：0.72m　幅：0.55m　深さ：0.63m

**埋土**　ローム・小礫含み少ししまりある暗褐色土で埋没する。

**構造**　本土坑の主軸はN47°Wを向く。




24号土坑
1　黒褐色土(10YR2/2)：粘性あり。白色ローム粒子、軽石・小石を少量含む

29号土坑
1　黒褐色土(10YR3/1)：少し粘性あり。ローム粒子、小石を少量含む

30号土坑
1　暗褐色土(10YR3/3)：少ししまりあり。ローム・小石を少量含む

第33図　24・29・30号土坑

本土坑のプランは隅丸長方形を呈し、底面は斜面上位(南東)側に傾く尖底を呈する。

**遺物**　本土坑からの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本土坑の時期は特定できなかった。

また掘削意図も特定できなかったが、土坑の規模に対して掘削は深い。

## 3　ピット

ピット群(第34～36図、PL.15・16)

**概要**　2面では調査区中南部の西部平坦面に6基、東部平坦面に1基、東西両平坦面間の緩傾斜部分に2基の合わせて9基のピットの分布が見られた。しかし、このうち64号ピットは内耳鍋が出土したことから1面のピットと併せてすでに報告したため、本項では62・63・65～70号ピットの8基のピットについて報告する。

**位置・規模・形態・主軸方位**　所在グリッド・規模・形態・主軸の向きは第4表に記した。

**重複**　本ピット群の各ピットはそれぞれ単独で在り、他の遺構との重複は見られなかった。

**埋土**　各ピットの断面図を参照されたい。

**構造**　本ピット群のピットのプランは、円形1基、楕円形3基、隅丸長方形1基、隅丸台形3基あった。

底面形は丸底が3基、平底が2基、尖底が2基、片寄の尖底が1基あった。

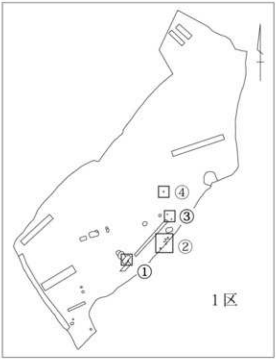
また断面観察から、62号ピットで北壁に沿って径0.10m以上の柱が立てられ、67号ピットで中央に径0.06～0.10mの柱が立てられていたものと思量される。

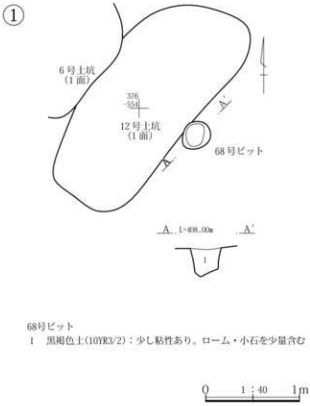
なお､その平面規模はいずれも中世的な規格であった。

**遺物**　本ピット群の各ピットからの遺物の出土は見られなかった。

**所見**　本ピット群の各ピットは小型の中世的な規格のものであったが、時期の特定には至らなかった。

また本ピット群の用途は土層断面観察から62・67号ピットは柱穴であったものと認識される。また69・70号ピットは、底面形が尖底であるため、杭の打設痕の可能性がある。これ以外のピットの用途については、想定することはできなかった。

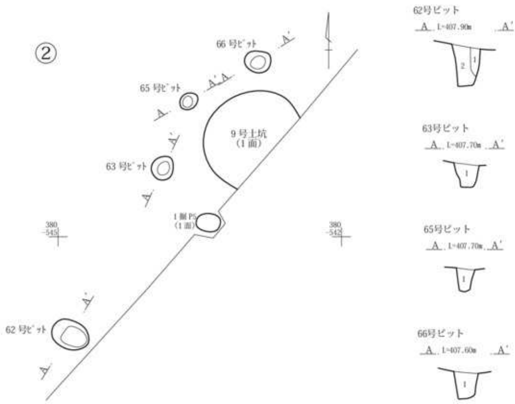



68号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：少し粘性あり。ローム・小石を少量含む

第34図　68号ピット

②



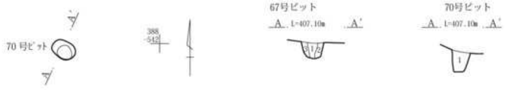

62号ピット
1　にぶい黄褐色土(10YR5/3)：ローム土
2　暗褐色土(10YR3/3)：少ししまり粘性あり。ローム粒子、小石を少量含む

63号ピット
1　黒褐色土(10YR3/2)：少し粘性あり。白色粒子、小石を少量含む

65号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：少ししまりあり。ローム粒子、小石を少量含む

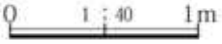
66号ピット
1　黒褐色土(10YR3/1)：少し粘性あり。ローム粒子、小石を少量含む

③



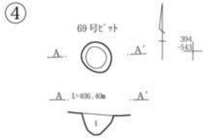
67号ピット
1　黒褐色土(10YR2/1)：少し粘性あり。ローム粒子、小石を少量含む
2　黒褐色土(10YR2/2)：ローム粒子、小石を少量含む
3　暗褐色土(10YR3/4)：ローム混土。少し粘性あり。小石を少量含む

70号ピット
1　黒褐色土(10YR3/4)：ローム粒・ブロック、小石を少量含む




第35図　62・63・65・66・67・70号ピット

④




69号ピット
1　褐灰色土(10YR5/1)しまりない。小石・ローム
　　ブロックを少量含む

0　1：40　1m

第36図　69号ピット

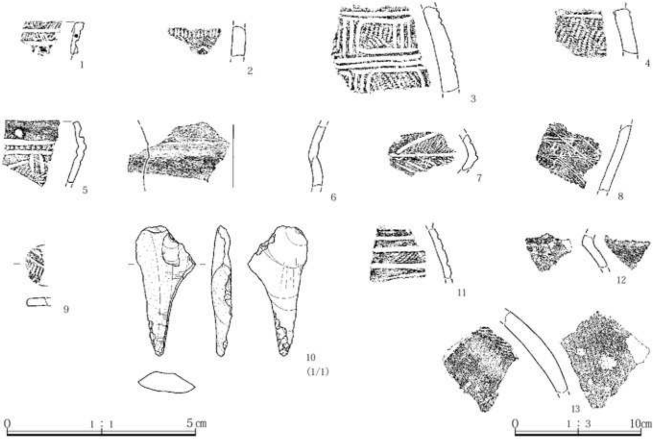
## 4　遺構外の出土遺物(第37図、PL.16・18・19)

本項では２面の遺構を除く、中世以降として把握した１面の遺構および遺構外出土の遺物も含め、２面の時期とする縄文時代から平安時代にかけての時期の出土遺物を、２面の遺構外の遺物として報告する。

縄文時代の遺物で図示したものでは縄文土器深鉢片が６片があるが、前期関山Ⅰ式古段階のものが１片(１)、中期の勝坂２式のものが１片(２)、加曽利Ｅ１式のものが２片(３・４)、後期の加曽利Ｂ２式のものが２片(５・６)あり、ほかに後期加曽利Ｂ２式の浅鉢片(７)と同じく鉢と思われるものの破片１片(８)があった。このほか中期勝坂２式が１片、加曽利Ｅ１式が２片、加曽利Ｅ３式が１片出土している。また中期勝坂２式の縄文土器片を転用した土製円盤(９)が見られ、石器で図示したものでは黒曜石製の石錐(10)があり、黒曜石片４点、チャート片１点、安山岩片１点、打製石斧の未製品１点の出土が見られた。

弥生土器では中期前半の所産と見られる甕の破片１片(11)が出土している。

また古墳時代の所産の可能性を有する土師器壺片１片(12)と須恵器甕片１片(13)の出土が見られた。




第37図　２面遺構外出土遺物

# 第３節　旧石器確認調査

## １　２面下の確認調査の概要(第38図、PL.17)

２面の調査終了に伴い、旧石器時代の遺物の有無等の確認調査を実施した。

確認調査はトレンチ掘削により実施し、西側尾根の傾斜地に２本(１・２トレンチ)、北西隅の谷地部分に１本(３トレンチ)のトレンチを設定した。また２面の東部平坦面の北東斜面の谷地部分に１本のトレンチ(４トレンチ)、調査区北東隅部に２本のトレンチ(５・６トレンチ)を設定した。１トレンチは長さ4.8m、幅0.6mで東北東－西南西方向に掘削し、２トレンチは長さ9.6m、幅2.0mで東北東－西南西方向に掘削した。３トレンチは長さ10.3m、幅1.4mで北東－南西方向に掘削し、４トレンチは長さ14.2m、幅1.4mで東北東－西南西方向に掘削した。５トレンチは長さ4.8m、幅1.1m、６トレンチは長さ4.6m、幅1.4mに、共に北西－西西方向に1.3m離して並列する位置に設定して掘削した。

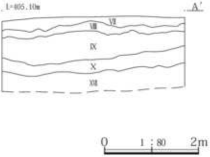
また県保護課による試掘調査トレンチも第38図に図示したが、２面の西部平坦面から東西平坦面間の斜面にかけてと、調査区西端縁に沿って掘削されている。

## ２　確認調査の成果

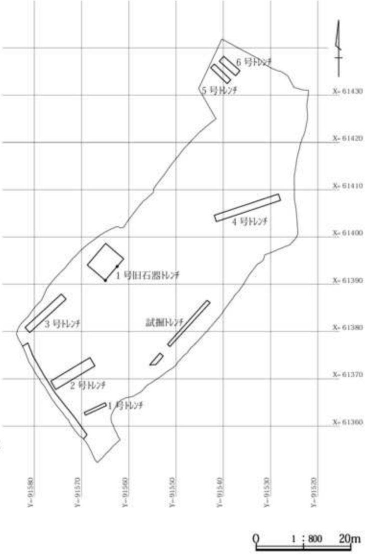
旧石器確認調査では、遺構・遺物を確認することはできなかった。

これにより、本遺跡の発掘調査は完了した。

１号旧石器トレンチ




１号旧石器トレンチ
Ⅶ　灰黄褐色土(10YR5/2)細粒の黄橙色粒、明黄褐色粒を含む
Ⅷ　黄褐色土(10YR5/6)黄橙色粒・ブロックを含む。しまり弱い
Ⅸ　にぶい黄褐色土(10YR4/3)細粒白色粒、黄橙色粒を少量含む
Ⅹ　暗褐色土(10YR3/4)褐灰色粘質土ブロックを含む。やや粘性あり
Ⅻ　褐色土(10YR4/4)礫を多量に含む。粘質黒色土ブロックを含む




第38図　確認調査トレンチ配置図

# 第４章　自然科学分析

## 第１節　出土骨の鑑定委託

### １　自然科学分析資料

厚田橋詰遺跡１号土壙墓の所謂中世土壙墓の埋葬形態を呈する出土骨について、鑑定を依頼した。

### ２　自然科学分析の目的

１号土壙墓出土人骨については形質人類学的検討を行い、鑑定要件は、年齢・性別・病歴などを明らかにすることとした。

### ３　自然科学分析の委託

出土人骨の鑑定は、当事業団内での実施には知見が不足しているため、外部委託することが適当と判断し、新潟医療福祉大学人類学研究所(奈良貴史教授)に鑑定を委託した。

### ４　分析の成果

１号土壙墓出土骨は１体分の人骨であったが、遺存状態は不良であり、確認できた頭蓋骨および四肢骨片の多くは破片化した状態にあった。また歯牙はエナメル質部分15本を確認したが全て永久歯であった。

年齢は頭蓋骨の縫合の閉塞状況と歯牙の咬耗から推定した。頭蓋骨の縫合は外板は閉じていないものの内板は閉鎖しており、一方歯牙の咬耗は２～４度で全体的に著しい咬耗は見られなかった。こうしたことから１号土壙墓出土人骨は熟年(40～59歳)程度の可能性が高いという所見を得た。

性別については歯冠(エナメル質部分)の計測値から推して、男性の可能性が高いと判断されている。

歯牙の齲歯は15本中１本と齲歯率は低く、群馬県の中近世の状態に踏襲されていた。また乳幼児期に栄養不良などの影響が考えられるエナメル質減形成は、歯牙15本中11本に認められた。

## 第２節　群馬県東吾妻町厚田橋詰遺跡から出土した人骨の人類学的報告

### １．はじめに

群馬県東吾妻町に所在する厚田橋詰遺跡の2022年発掘調査において，中世に相当すると思われる１号土壙墓より人骨が出土した．本稿はそれらの人類学的報告である．

### ２．方法

年齢は，頭蓋縫合の閉塞状況(瀬田・吉野，1990；White et al，2012)，歯の形成・萌出状況(Smith，1991；Ubelaker，1999)に基づいて推定した．年齢段階の表記は，乳児(0～1歳)，幼児1～6歳)，小児(6～14歳)，若年(15～19歳)，壮年(20～39歳)，熟年(40～59歳)，老年(60歳以上)とした．

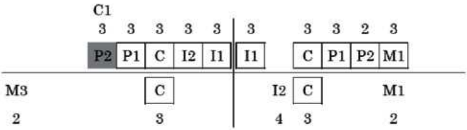
歯の計測は藤田(1949)に準拠した．歯の咬耗度はMolnar (1971)の８段階の分類，齲蝕はWHO (2013)の区分(C1：齲蝕がエナメル質に限局する，C2：齲蝕が象牙質にまで達しているが歯髄には達していない，C3：齲蝕が歯髄にまで達している，C4：齲蝕のため歯冠がほとんど崩壊している)，エナメル質減形成の有無は山本(1988)の基準に従った．

同定できた歯は次の通り歯式に表記した(Ｉ：切歯，Ｃ：犬歯，Ｐ：小臼歯，Ｍ：大臼歯，数字：同一歯種内での順位)．歯式の水平線は上下顎の境界，垂直線は左右の境界を表し，向かって左側が個体の右側に対応する．歯種の上下にMolnar (1971)の咬耗度を示した．齲蝕を認めた歯は網掛けにし，齲蝕の程度を歯式に併記した．エナメル質減形成を認めた歯は外枠で囲んだ．

### ３．人骨所見(第５表，写真図版１)

【遺存状況】出土状況写真から，人骨は頭骨を北側に，下肢骨を南側に膝を折り曲げた屈葬と思われる状態で出土した．遺存状態はきわめて不良であり，骨は脆く細片化が著しい．頭骨片，四肢骨片が多数残存する．検出され

た15本の歯はすべて永久歯であり，歯根部を欠損し，エナメル質部分のみが遺存する．歯種に重複が認められないことから，１個体分の埋葬と考えられる．同定できた歯は以下の歯式の通りである．すべて遊離歯である．




上顎右第２小臼歯の遠心面にエナメル質に限局する齲蝕が確認された．また，残存歯15本中11本にエナメル質減形成が認められた(73.3％)．

【年齢】下顎右第３大臼歯の萌出が完了していることから，少なくとも18歳以上である．さらに，観察できた頭骨片の頭蓋縫合(写真図版１－Ｂの矢印部分)は，外板は閉じていないが内板は閉じていることから，成人段階でも壮年期の可能性は低いものと思われる．また，歯の咬耗状態は象牙質が僅かに露出する程度の３度の割合が多く，下顎左側切歯のみ象牙質の露出がさらに進行する４度を示すものの，大臼歯部においては下顎左第１大臼歯および同右第３大臼歯は象牙質の露出には至らない２度を呈しており，全体的に著しい咬耗の進行は認められない．よって，老年段階に達していた可能性は低いものと思われる．以上より，本個体の年齢は熟年程度の可能性が高いと考えられる．

【性別】性別の推定に有効な部位が遺存していないが，同定できたすべての歯の歯冠計測値において，近遠心径および唇・頬舌径ともに，上顎右側切歯の近遠心径を除き，中世の男性平均値(Matsumura, 1994；Nagaoka and Hirata, 2006)よりも大きいか同程度である(第５表)．したがって，本個体は歯冠の大きさから判断する限り，男性の可能性が高いと思われる．

【頭骨片・四肢骨片】本個体の骨の遺存状況はきわめて不良であり，全体的に骨は脆く，細片化が著しい．したがって，骨の計測および観察に耐え得る部分は認められず，部位同定はきわめて困難であった．頭骨においては頭蓋縫合を観察できた箇所が１点確認できたが，頭蓋三主縫合(冠状縫合・矢状縫合・ラムダ縫合)のいずれであるかは不明である．四肢骨においても長管骨の形状を留めるものは遺存せず，ほとんど著しく破片化した状態である．

【歯の齲蝕】本個体の齲歯数は残存歯15本中１本であり，齲歯率(齲歯数/総歯数)は6.6％である．佐倉(1964)によれば，関東地方における日本人の齲歯率は，鎌倉時代人5.5％（鎌倉材木座：147本/2669本），室町時代人14.6％（東京丸の内：80本/548本），江戸時代人19.2％（江戸府内深川雲光院：123本/638本）・20.3％（同浄心寺：108本/530本）と次第に増加し，中世の齲歯率は近世よりも低いことが報告されている．

また，近世の江戸近郊の農村部遺跡における齲歯率は，お寺山遺跡(埼玉県鶴ヶ島市）0.8％（４本/495本）(Sakura, 1985)，受地だいやま遺跡(神奈川県横浜市）5.7％（31本/538本）（森本ほか，1986)，広袴・向遺跡(東京都町田市）4.2％（７本/164本）（森本・平田，1991)，南養寺遺跡(東京都国立市）1.8％（４本/211本）(梶ヶ山・馬場，1995)のように，江戸府内と比べて低い傾向を示す．

群馬県における中・近世人骨の齲歯率についても，これまで上ノ平Ｉ遺跡6.4％（９本/140本）（楢崎，2008)，石川原遺跡（２）0.7％（２本/263本）（奈良・佐伯，2020)，吉ヶ谷津遺跡5.2％（10本/189本）（奈良ほか，2021；新倉ほか，2022)などのように，江戸近郊の近世農村部遺跡と同様に全体的に低い傾向を示すことが分かっている．本遺跡における齲歯率が低い点は，従来の群馬県内の中・近世人骨や江戸近郊の近世農村部人骨の傾向と共通している．

４．まとめ

群馬県東吾妻町に所在する厚田橋詰遺跡の2022年発掘調査において，中世に相当すると思われる１号土壙墓より人骨が出土した．遺存状態はきわめて不良であり，頭骨片・四肢骨片が多数残存し，歯は歯根部を欠損したエナメル質部分のみの永久歯が少なくとも15本検出され

第５表　永久歯の歯冠計測値（㎜）

| | | 厚田橋詰遺跡 1号土壙墓人骨 | | | | 中世平均値 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | 関東地方[1] | | | | 由比ヶ浜南遺跡[2] | | | | 中世集団墓地遺跡[2] | | | |
| | | | | | | 男性 | | | | 男性 | | | | 男性 | | | |
| | | 右 | | 左 | | 右 | | | | 右 | | | | 右 | | | |
| | | 近遠心径 | 唇・頬舌径 | 近遠心径 | 唇・頬舌径 | n | 近遠心径 | n | 唇・頬舌径 | n | 近遠心径 | n | 唇・頬舌径 | n | 近遠心径 | n | 唇・頬舌径 |
| 上顎 | I1 | 9.20 | × | × | × | 77 | 8.48 | 80 | 7.29 | 42 | 8.49 | 42 | 7.57 | 27 | 8.47 | 27 | 7.47 |
| | I2 | 6.57 | 6.78 | — | — | 77 | 6.98 | 79 | 6.55 | 43 | 6.90 | 43 | 6.73 | 26 | 6.96 | 26 | 6.68 |
| | C | 8.07 | 9.30 | 8.17 | 9.35 | 90 | 7.96 | 97 | 8.50 | 43 | 7.95 | 43 | 8.74 | 31 | 7.88 | 31 | 8.59 |
| | P1 | 7.77 | 10.42 | 7.82 | 10.29 | 95 | 7.25 | 95 | 9.46 | 45 | 7.17 | 45 | 9.58 | 34 | 7.26 | 33 | 9.58 |
| | P2 | 7.60 | 10.62 | 7.55 | — | 101 | 6.87 | 102 | 9.39 | 45 | 6.69 | 45 | 9.26 | 33 | 6.85 | 33 | 9.49 |
| | M1 | — | — | 11.10 | 12.62 | 91 | 10.45 | 97 | 11.81 | 39 | 10.42 | 41 | 11.67 | 33 | 10.28 | 33 | 11.60 |
| | M2 | — | — | — | — | 100 | 9.65 | 98 | 11.72 | 43 | 9.54 | 43 | 11.71 | 33 | 9.44 | 35 | 11.53 |
| | M3 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 下顎 | I1 | — | — | — | — | 39 | 5.42 | 43 | 5.78 | 43 | 5.34 | 42 | 6.11 | 23 | 5.43 | 24 | 6.09 |
| | I2 | — | — | 6.27 | 7.03 | 47 | 6.04 | 49 | 6.22 | 44 | 6.09 | 43 | 6.66 | 24 | 6.09 | 24 | 6.75 |
| | C | 7.04 | 8.27 | 7.00 | 8.33 | 53 | 6.88 | 54 | 7.82 | 45 | 6.96 | 46 | 8.19 | 27 | 6.91 | 27 | 8.20 |
| | P1 | — | — | — | — | 56 | 7.07 | 56 | 8.10 | 45 | 7.10 | 46 | 8.08 | 27 | 7.06 | 27 | 7.98 |
| | P2 | — | — | — | — | 57 | 7.12 | 59 | 8.49 | 46 | 7.04 | 46 | 8.42 | 27 | 7.33 | 27 | 8.36 |
| | M1 | — | — | 11.62 | 11.07 | 55 | 11.56 | 58 | 11.00 | 46 | 11.16 | 45 | 11.07 | 26 | 11.21 | 26 | 10.99 |
| | M2 | — | — | — | — | 56 | 11.06 | 56 | 10.55 | 46 | 10.66 | 45 | 10.50 | 25 | 10.93 | 26 | 10.67 |
| | M3 | 10.93 | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

—：該当歯種なし．×：エナメル質の破損のため計測不可．
1 Matsumura (1994)，2 Nagaoka and Hirata (2006)

た．歯種に重複が認められないことから，１個体分の埋葬と考えられる．頭骨片および歯の所見などから，本個体は熟年程度の男性の可能性が高いものと判断された．

齲歯数は残存歯15本中１本であり，齲歯率は6.6％である．この値は既報の群馬県内の中・近世人骨および江戸近郊の近世農村部人骨と同様に低い傾向を示す．また，乳幼児期に栄養不良など何らかの身体的ストレスを受けていた可能性を示すとされるエナメル質減形成は，残存歯15本中11本に認められた（73.3％）．

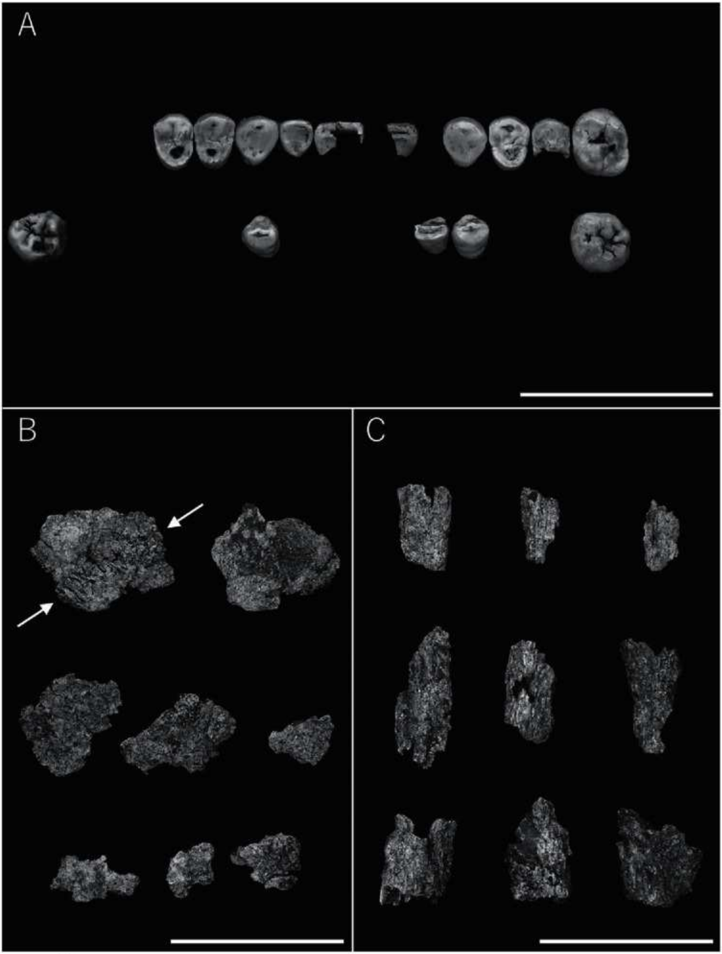
本稿において群馬県の中世人骨の１例が新たに示されたが，群馬県内における中・近世人骨の様相をさらに明らかにしていくためにも，今後一層の資料の検討が望まれる．

謝辞

本遺跡出土人骨の整理作業にあたり，以下の新潟医療福祉大学学生の協力を得た．記して深謝の意を表したい．菊地条太朗，栗川桃華，小池凌太，小泉亮馬，高橋麻衣，筑前滉太，永野汐音，宮川遥愛，矢吹周平，山田敏輝，吉田佳笑，渡辺乙羽（五十音順）．

引用文献

藤田恒太郎（1949）歯の計測基準について．人類学雑誌，61：27-31．
梶ケ山真里・馬場悠男（1995）南養寺遺跡（第10次）出土人骨．国立市遺跡調査団編，東京都国立市南養寺遺跡－Ｘ－，国立市教育委員会，国立，pp. 118-124．
Matsumura H. (1994) A Microevolutional History of the Japanese People from a Dental Characteristics Perspective. Anthropological Science, 102: 93-118.
Molnar S. (1971) Human tooth wear, tooth function and cultural variability. American Journal of Physical Anthropology, 34: 175-190.
森本岩太郎・吉田俊爾・工藤宏幸（1986）近世墓壙群出土の人骨鑑定・分析．奈良地区遺跡調査団編，奈良地区遺跡群Ⅰ 理科学分析編，奈良地区遺跡調査団，横浜，pp. 95-123．
森本岩太郎・平田和明（1991）町田市広袴・向遺跡出土人骨について．鶴川第二地区遺跡調査会編，真光寺・広袴遺跡群Ｖ －大久保遺跡・向遺跡－，鶴川第二地区遺跡調査会，町田，pp. 513-543．
Nagaoka T and Hirata K. (2006) Tooth size of the medieval period people of Japan. Anthropological Science, 114: 117-126.
楢崎修一郎（2008）上ノ平Ⅰ遺跡出土人骨．（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編，上ノ平Ⅰ遺跡（1），（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団，渋川，pp. 151-180．
奈良貴史・佐伯史子（2020）石川原遺跡出土人骨の人類学的研究．（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編，石川原遺跡（2），（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団，渋川，pp. 499-506．
奈良貴史・佐伯史子・鈴木敏彦・波田野悠夏（2021）吉ヶ谷津遺跡出土の人骨について．（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団編，吉ヶ谷津遺跡（安中市0201遺跡），（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団，渋川，pp. 130-135．
新倉明彦・奈良貴史・佐伯史子・辰巳晃司（2022）安中市吉ヶ谷津遺跡近世墓出土人骨の人類学的検討．（公財）群馬県埋蔵文化財調査事業団研究紀要，40：129-140．
佐倉朔（1964）日本人における齲歯頻度の時代的推移．人類学雑誌，71：21-45．
Sakura H. (1985) Low Incidence of Dental Caries among a Rural Population in the Early Modern Age Unearthed from Oterayama Site. Bulletin of the National Science Museum, 11: 1-5.
瀬田季茂・吉野峰生（1990）白骨死体の鑑定．令文社，東京．
Smith B.H. (1991) Standards of human tooth formation and dental age assessment. In: Kelly M.A. and Larsen C.S. (eds.), Advances in Dental Anthropology. Wiley－Liss, New York, pp. 143-168.
Ubelaker D.H. (1999) Human Skeletal Remains, 3rd edition. Taraxacum, Washington DC.
White T.D., Black M.T., and Folkens P.A. (2012) Human Osteology, 3rd edition. Academic Press, San Diego.
WHO (World Health Organization) (2013) Oral Health Surveys: Basic Methods, 5th edition. Geneva.
山本美代子（1988）日本人古人骨永久歯のエナメル質減形成．人類学雑誌，96：417-433．






写真図版１　１号土壙墓人骨　Ａ：歯，Ｂ：頭骨片（矢印部分は頭蓋縫合が観察された箇所），Ｃ：四肢骨片
スケールバーは５cm

# 第５章　まとめ

## 第１節　厚田橋詰遺跡の概要

厚田橋詰遺跡は榛名山北麓端部の傾斜地にあり、この傾斜地中の比較的平坦な区域を中心に遺構の分布が見られた。調査面は浅間山As-Kk（大治３（1128））層（標準Ⅵ層）下面を確認面とする中世の１面と、黄橙色土（標準Ⅸ層）上面を確認面とする縄文時代から平安時代の２面であった。

１面では掘立柱建物１棟、土壙墓１基、土坑26基、ピット55基、集石１基、溝１条、畑１面、廃滓２か所を確認、調査した。

２面では土坑３基、ピット８基を確認、調査した。

なお、旧石器確認調査を実施したが、旧石器時代の遺構、遺物は確認されなかった。

上述のように、本遺跡で調査した遺構は調査区中南部の比較的平坦な区域に集中し、全体的にその分布は希薄であった。また本遺跡の遺跡としての種別は集落、生産遺跡と認識することはできず、「散布地」として把握できるに過ぎない。

## 第２節　出土鉄滓の概要

遺跡では２か所の鉄滓の分布域、すなわち調査区北西部の１号廃滓と調査区中南部の２号廃滓を確認、調査した。このほか１号廃滓に北接する調査区北西隅部の谷地（１面谷地）と、２号廃滓の西から南東にかけての調査区中南部の平坦部周辺部に在る６・７・８・12・22・23号土坑、47号ピット、１号集石の８遺構からも鉄滓の出土が見られた。１・２号廃滓出土の鉄滓を含め、これらの鉄滓については第３・４表にまとめた。

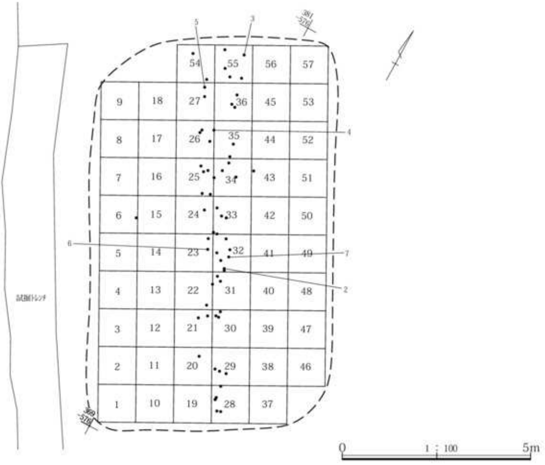
１・２号廃滓は、共に鉄滓がAs-Kk混土中に散布した状態で出土しているものであり、その時期は中世と認識されるものの、特定することはできなかった。

１号廃滓出土の鉄滓は575点、13377.8gあり、このうちメタル反応のある鉄滓は23点、2518.1gであった。またこの１号廃滓と北接する谷地の鉄滓は3点、4415.9gでこのうちメタル反応のある鉄滓は１点、1608.1gで、両者を合わせると579点、19401.8gで、メタル反応のある鉄滓は24点、4126.2gあった。また２号廃滓は17点、1399.2gで、反応のある鉄滓は３点、47.9gであるが、周辺８遺構と合わせると出土廃滓は44点、5008.8gあり、このうちメタル反応のある鉄滓は５点407.1gであった。

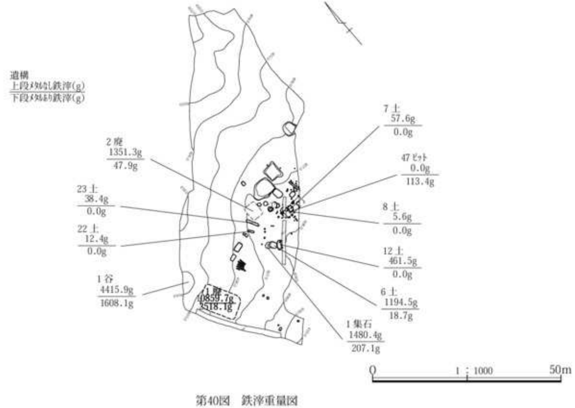
１・２号廃滓および周辺地域には製鉄遺構そのものは確認されなかったが、１号廃滓の中央付近に羽口１点（２）と大型の碗形鉄滓と見られる鉄滓２点（６・７）、北西部から羽口３点（３～５）が出土しており、羽口の一部はガラス化して使用の痕跡が顕著である。また２号廃滓からも羽口１点、２号廃滓の南１m付近に在る12号土坑から炉壁あるいは羽口と見られる土製品の出土が見られたため、１・２号廃滓付近で製鉄作業が営まれていた可能性は低くないものと判断される。

第６表　遺構別鉄滓重量

| 種・数<br>遺構 | メタル反応なし鉄滓 | | メタル反応あり鉄滓 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 点数 | 重量 | 点数 | 重量 | |
| １号廃滓 | 552 点 | 10859.7 g | 23 点 | 2518.1 g | 羽口片が４点（２～５）含まれる。羽口片の一部はガラス化している。大型の椀形とみられる滓（６・７）が含まれる。わずかに流動性を持つ滓が確認される。 |
| ２号廃滓 | 14 点 | 1351.3 g | 3 点 | 47.9 g | 羽口片１点が含まれ、先端部はガラス化している。 |
| １面谷地 | 3 点 | 4415.9 g | 1 点 | 1608.1 g | 一部、炭の痕跡が残存する。若干の流動性のある滓が見られ、小石などを含む滓も確認できる。 |
| １号集石 | 8 点 | 1480.4 g | 1 点 | 207.1 g | 底面が丸みを帯び、椀形とみられる滓が２点確認できる。 |
| ６号土坑 | 6 点 | 1194.5 g | 1 点 | 18.7 g | 一部わずかに下面が椀形となるものがあるが、はっきりとしない。数点、流動滓が含まれる。 |
| ７号土坑 | 2 点 | 57.6 g | 0 点 | 0 g | 小片の滓。 |
| ８号土坑 | 1 点 | 5.6 g | 0 点 | 0 g | 酸化土砂を含む滓。１点 |
| 12号土坑 | 5 点 | 461.5 g | 0 点 | 0 g | 炉壁もしくは羽口を含み、ガラス質が見られる滓が確認できる。 |
| 22号土坑 | 2 点 | 12.4 g | 0 点 | 0 g | 小片の滓。 |
| 23号土坑 | 1 点 | 38.4 g | 0 点 | 0 g | 酸化土砂を含む小片の滓。 |
| 47号ピット | 0 点 | 0 g | － 点 | 133.4 g | 酸化土砂を含む鉄滓。不定形。 |
| １面 | 0 点 | 0 g | 2 点 | 1608.1 g | 酸化土砂を含む鉄滓。不定形。 |




第39図　１号廃滓遺物位置図




第40図　鉄滓重量図

## 第7表　遺構一覧表

[ ] 付測定値は推定長、( ) 付測定値は残存長を示す。

掘立柱建物

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 柱間　桁行　間　×　梁行　間 | 主軸 | 桁行(m) | 梁行(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61379 ~ 61382 | -91541 ~ -91547 | (1×3) | N−88°−E | 1.984 | 2.09 | 中世 |

土壙墓

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 平面形 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61383 ~ 61384 | -91540 ~ -91541 | 楕円形 | N−23°−E | (0.84) | 0.80 | 0.22 | 中世 |

土坑

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 平面形 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61357 | -91563 | 水滴形 | N−43°−W | 0.56 | 0.44 | 0.43 | |
| 2 | 1 | 1 | 61358 ~ 61359 | -91567 ~ -91568 | 隅丸長方形 | N−77°−E | 0.87 | 0.64 | 0.30 | |
| 3 | 1 | 1 | 61360 | -91567 ~ -91568 | 隅丸長方形 | N−43°−E | 0.42 | 0.30 | 0.16 | |
| 4 | 1 | 1 | 61367 | -91565 | 隅丸長方形 | N−45°−E | 0.66 | 0.60 | 0.31 | |
| 5 | 1 | 1 | 61368 | -91565 ~ -91566 | 隅丸長方形 | N−50°−E | 0.56 | 0.41 | 0.21 | |
| 6 | 1 | 1 | 61376 ~ 61378 | -91554 ~ -91556 | 隅丸長方形 | N−42°−W | (2.16) | 1.72 | 0.40 | |
| 7 | 1 | 1 | 61380 ~ 61382 | -91544 ~ -91546 | 隅丸六角形 | N−10°−W | 1.52 | 1.40 | 0.20 | 中世以降 |
| 8 | 1 | 1 | 61381 ~ 61382 | -91546 ~ -91547 | 隅丸三角形 | N−81°−E | (1.34) | (1.16) | 0.13 | |
| 9 | 1 | 1 | 61380 ~ 61381 | -91542 ~ -91543 | 楕円形 | N−11°−E | (1.12) | (1.04) | 0.19 | |
| 10 | 1 | 1 | 61381 ~ 61382 | -91543 ~ -91544 | 隅丸長方形 | N−83°−W | 0.58 | 0.48 | 0.37 | |
| 11 | 1 | 1 | 61384 | -91548 ~ -91550 | 楕円形 | N−87°−E | 1.14 | 0.59 | 0.57 | |
| 12 | 1 | 1 | 61374 ~ 61377 | -91552 ~ -91554 | 隅丸の舟形 | N−43°−E | 2.60 | 1.16 | 0.33 | |
| 13 | 1 | 1 | 61383 ~ 61384 | -91541 ~ -91543 | 隅丸長方形 | N−80°−E | 1.60 | 1.24 | 0.40 | |
| 14 | 欠番 | | | | | | | | | |
| 15 | 1 | 1 | 61386 ~ 61387 | -91548 ~ -91550 | 隅丸方形 | N−65°−E | 1.18 | 1.12 | 0.20 | 室町時代中期以前 |
| 16 | 1 | 1 | 61383 ~ 61385 | -91548 ~ -91550 | 隅丸台形 | N−39°−W | 1.48 | 1.28 | (0.37) | |
| 17 | 1 | 1 | 61385 ~ 61387 | -91544 ~ -91546 | 隅丸長方形 | N−7°−W | 2.64 | 1.84 | 0.40 | |
| 18 | 1 | 1 | 61387 ~ 61388 | -91550 ~ -91551 | 楕円形 | N−41°−W | 1.04 | 0.92 | 0.18 | 平安時代末期~鎌倉時代初頭 |
| 19 | 1 | 1 | 61383 ~ 61384 | -91546 ~ -91548 | 隅丸長方形 | N−86°−W | (1.35) | (1.08) | 0.28 | |
| 20 | 1 | 1 | 61384 ~ 61385 | -91547 ~ -91548 | 隅丸長方形 | N−34°−E | (1.57) | (0.60) | 0.60 | |
| 21 | 1 | 1 | 61393 ~ 61395 | -91549 ~ -91550 | 隅丸長方形 | N−3°−W | 1.17 | 0.90 | 0.22 | |
| 22 | 1 | 1 | 61382 ~ 61384 | -91556 ~ -91557 | 隅丸短冊形 | N−35°−W | 1.82 | 0.57 | 0.32 | |
| 23 | 1 | 1 | 61383 ~ 61386 | -91554 ~ -91556 | 隅丸短冊形 | N−30°−W | 3.60 | 0.71 | 0.58 | |
| 24 | 1 | 2 | 61387 | -91544 ~ -91545 | 隅丸長方形 | N−78°−E | 0.69 | 0.62 | 0.32 | |
| 25 | 1 | 1 | 61383 ~ 61384 | -91558 ~ -91559 | 隅丸長方形 | N−8°−E | 0.95 | 0.57 | 0.27 | |
| 26 | 1 | 1 | 61383 ~ 61384 | -91558 ~ -91559 | 隅丸長方形 | N−19°−W | (0.60) | 0.55 | 0.24 | |
| 27 | 1 | 1 | 61380 ~ 61382 | -91564 ~ -91566 | 隅丸長方形 | N−75°−E | 1.74 | 1.00 | 0.32 | |
| 28 | 1 | 1 | 61381 ~ 61383 | -91561 ~ -91563 | 隅丸長方形 | N−76°−E | 2.55 | 1.45 | 0.49 | |
| 29 | 1 | 2 | 61384 ~ 61385 | -91548 ~ -91549 | 隅丸台形 | N−61°−E | 1.24 | 1.08 | 0.32 | |
| 30 | 1 | 2 | 61383 | -91561 ~ -91562 | 隅丸長方形 | N−47°−W | 0.72 | 0.55 | 0.63 | |

ピット

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 平面形 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61374 ~ 61375 | -91553 | [円形] | N−4°−E | 0.30 | 0.29 | 0.26 | 中世 |
| 2 | 1 | 1 | 61379 | -91557 | 楕円形 | N−78°−W | 0.30 | 0.21 | 0.18 | 中世 |
| 3 | 1 | 1 | 61379 ~ 61380 | -91555 | 水滴形 | N−59°−W | 0.32 | 0.29 | 0.51 | 中世 |
| 4 | 1 | 1 | 61380 | -91555 | [隅丸長方形] | N−46°−W | 0.22 | (0.19) | 0.12 | 中世 |
| 5 | 1 | 1 | 61381 | -91554 | 隅丸台形 | N−54°−E | 0.35 | 0.35 | 0.21 | 中世 |
| 6 | 1 | 1 | 61381 | -91552 | 隅丸台形 | N−76°−E | 0.23 | 0.19 | 0.09 | 中世 |
| 7 | 1 | 1 | 61380 | -91551 | 隅丸台形 | N−83°−E | 0.25 | 0.20 | 0.11 | 中世 |
| 8 | 1 | 1 | 61381 | -91548 ~ -91549 | 隅丸盾形 | N−72°−E | 0.48 | 0.43 | 0.44 | 中世 |
| 9 | 1 | 1 | 61382 | -91548 ~ -91549 | 隅丸台形 | N−7°−W | 0.32 | 0.28 | 0.34 | 中世 |
| 10 | 1 | 1 | 61382 ~ 61383 | -91548 | 半楕円形 | N−3°−E | 0.25 | 0.21 | 0.07 | 中世 |
| 11 | 1 | 1 | 61381 ~ 61382 | -91547 ~ -91548 | 円形 | N−25°−W | 0.32 | 0.30 | 0.11 | 中世 |
| 12 | 1 | 1 | 61381 | -91547 ~ -91548 | 隅丸三角形 | N−51°−W | 0.29 | 0.27 | 0.28 | 中世 |
| 13 | 1号掘立柱建物P2 | | | | | | | | | |
| 14 | 1 | 1 | 61380 | -91547 | 楕円形 | N−51°−W | 0.25 | 0.20 | 0.17 | 中世 |
| 15 | 1号掘立柱建物P1 | | | | | | | | | |
| 16 | 1 | 1 | 61379 | -91546 ~ -91547 | 隅丸長方形 | N−28°−E | 0.36 | 0.32 | 0.17 | 中世 |
| 17 | 1 | 1 | 61379 ~ 61380 | -91545 ~ -91546 | 楕円形 | N−64°−W | 0.27 | 0.20 | 0.16 | 中世 |
| 18 | 1 | 1 | 61379 | -91545 ~ -91546 | 隅丸台形 | N−52°−E | 0.36 | 0.36 | 0.18 | 中世 |
| 19 | 1号掘立柱建物P3 | | | | | | | | | |
| 20 | 1 | 1 | 61383 | -91546 | 楕円形 | N−76°−E | 0.18 | 0.16 | 0.16 | 中世 |
| 21 | 1 | 1 | 61381 | -91547 ~ -91548 | [楕円形] | N−42°−W | 0.32 | 0.28 | 0.18 | 中世 |
| 22 | 1 | 1 | 61381 | -91553 ~ -91554 | 楕円形 | N−43°−E | 0.36 | 0.34 | 0.31 | 中世 |
| 23 | 1 | 1 | 61378 | -91546 | 円形 | N−23°−W | 0.20 | 0.20 | 0.15 | 中世 |
| 24 | 1 | 1 | 61378 ~ 61379 | -91545 | 楕円形 | N−32°−W | 0.28 | 0.26 | 0.24 | 中世 |
| 25 | 1 | 1 | 61381 | -91545 ~ -91546 | 楕円形 | N−23°−W | 0.24 | 0.21 | 0.16 | 中世 |
| 26 | 1 | 1 | 61382 | -91545 ~ -91546 | 隅丸台形 | N−53°−W | 0.24 | 0.23 | 0.25 | 中世 |

遺構一覧表

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 平面形 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 1 | 1 | 61384～61385 | -91541～-91542 | 隅丸長方形 | N－40°－E | 0.28 | 0.25 | 0.13 | 中世 |
| 28 | 1 | 1 | 61381～61381 | -91543 | 楕円形 | N－26°－E | 0.24 | 0.21 | 0.34 | 中世 |
| 29 | 1 | 1 | 61382～61383 | -91543 | 隅丸盾形 | N－67°－E | 0.33 | 0.31 | 0.25 | 中世 |
| 30 | 1 | 1 | 61385 | -91542～-91543 | 長瓢箪形 | N－69°－E | 0.54 | 0.33 | 0.25 | 中世 |
| 31 | 1 | 1 | 61378 | -91545～-91546 | 楕円形 | N－57°－W | 0.28 | 0.27 | 0.37 | 中世 |
| 32 | 1号掘立柱建物P6 | | | | | | | | | |
| 33 | 1 | 1 | 61381 | -91545 | 隅丸方形 | N－63°－E | 0.29 | 0.26 | 0.19 | 底面近くに礫<br>中世 |
| 34 | 1 | 1 | 61381 | -91544～-91545 | 隅丸方形 | N－50°－W | 0.27 | 0.26 | 0.21 | 中世 |
| 35 | 1 | 1 | 61378～61379 | -91546 | 隅丸方形 | N－25°－W | 0.23 | 0.22 | 0.22 | 中世 |
| 36 | 1号掘立柱建物P7 | | | | | | | | | |
| 37 | 1 | 1 | 61381 | -91543～-91544 | [隅丸方形] | N－83°－E | (0.26) | (0.14) | 0.26 | 中世か |
| 38 | 1 | 1 | 61385 | -91542 | 隅丸方形 | N－6°－E | 0.27 | 0.26 | 0.25 | 中世 |
| 39 | 1 | 1 | 61385 | -91539～-91540 | 隅丸台形 | N－68°－W | 0.29 | 0.28 | 0.29 | 中世 |
| 40 | 1 | 1 | 61385 | -91539 | 楕円形 | N－66°－W | 0.25 | 0.21 | 0.31 | 中世 |
| 41 | 1 | 1 | 61386 | -91540 | 方形 | N－45°－W | 0.22 | 0.21 | 0.28 | 中世 |
| 42 | 1 | 1 | 61386～61387 | -98540 | 楕円形 | N－38°－E | 0.34 | 0.26 | 0.20 | 中世 |
| 43 | 1 | 1 | 61384～61385 | -91541 | 水滴形 | N－71°－E | 0.22 | 0.16 | 0.35 | 中世 |
| 44 | 1 | 1 | 61384 | -91539～-91540 | 円形 | N－48°－W | 0.26 | 0.26 | 0.29 | 中世 |
| 45 | 1 | 1 | 61381 | -91546 | 隅丸盾形 | N－57°－E | 0.29 | 0.28 | 0.33 | 中世 |
| 46 | 1 | 1 | 61380 | -94545 | 楕円形 | N－75°－W | 0.26 | 0.22 | 0.21 | 中世 |
| 47 | 1 | 1 | 61380 | -94545 | 楕円形 | N－43°－E | 0.31 | 0.28 | 0.31 | 底面に小礫、中世 |
| 48 | 1 | 1 | 61384 | -91539～-91540 | 隅丸台形 | N－31°－W | 0.18 | 0.17 | 0.16 | 中世 |
| 49 | 1号掘立柱建物P5 | | | | | | | | | |
| 50 | 1号掘立柱建物P4 | | | | | | | | | |
| 51 | 1 | 1 | 61376 | -91552～-91553 | 隅丸長方形 | N－34°－E | 0.40 | 0.30 | 0.46 | 中世 |
| 52 | 1 | 1 | 61380 | -91546 | 楕円形 | N－82°－W | 0.26 | 0.22 | 0.29 | 中世 |
| 53 | 1 | 1 | 61377～61378 | -91545～-91456 | 楕円形 | N－51°－W | 0.22 | 0.19 | 0.15 | 中世 |
| 54 | 1 | 1 | 61377 | -91546 | 隅丸長方形 | N－18°－E | 0.29 | 0.24 | 0.26 | 中世 |
| 55 | 1 | 1 | 61387～61388 | -91547 | 楕円形 | N－37°－E | 0.20 | 0.17 | 0.38 | 中世 |
| 56 | 1 | 1 | 61376 | -91549 | 隅丸長方形 | N－55°－E | 0.32 | 0.26 | 0.40 | 中世 |
| 57 | 1 | 1 | 61380～61381 | -91548 | 楕円形 | N－20°－W | 0.30 | 0.21 | 0.31 | 中世 |
| 58 | 1 | 1 | 61387～61388 | -91546 | 隅丸三角形 | N－12°－E | 0.22 | 0.21 | 0.29 | 中世 |
| 59 | 1 | 1 | 61388 | -91537 | 楕円形 | N－34°－W | 0.22 | 0.20 | 0.21 | 中世 |
| 60 | 1 | 1 | 61391 | -91540 | 隅丸長方形 | N－47°－E | 0.22 | 0.20 | 0.15 | 中世 |
| 61 | 1 | 1 | 61393～61394 | -91542 | 楕円形 | N－15°－W | 0.27 | 0.23 | 0.53 | 中世 |
| 62 | 1 | 2 | 61378～61379 | -91544～-91545 | 楕円形 | N－65°－W | 0.40 | 0.31 | 0.44 | |
| 63 | 1 | 2 | 61380 | -91543～-91544 | 隅丸台形 | N－10°－W | 0.24 | 0.22 | 0.25 | |
| 64 | 1 | 1 | 61381 | -91544 | 長方形 | N－89°－W | 0.20 | 0.17 | 0.18 | 中世 |
| 65 | 1 | 2 | 61381 | -91543 | 楕円形 | N－60°－E | 0.20 | 0.16 | 0.26 | |
| 66 | 1 | 2 | 61381 | -91542～-91543 | 隅丸台形 | N－84°－W | 0.28 | 0.23 | 0.29 | |
| 67 | 1 | 2 | 61386 | -91541～-91542 | 隅丸台形 | N－90° | 0.24 | 0.23 | 0.16 | |
| 68 | 1 | 2 | 61375 | -91553 | 隅丸長方形 | N－76°－E | 0.29 | 0.29 | 0.29 | |
| 69 | 1 | 2 | 61393～61394 | -91543～-91544 | 円形 | N－59°－W | 0.32 | 0.31 | 0.24 | |
| 70 | 1 | 2 | 61387～61388 | -91542～-91543 | 楕円形 | N－41°－W | 0.26 | 0.18 | 0.22 | |

集石

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61377～61378 | -91555～-91557 | N－80°－W | (1.64) | 1.54 | 0.32 | 中世 |

溝

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 深さ(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61383～61386 | -91540～-91541 | N0° | 3.38 | 0.44 | 0.15 | 中世 |

畑

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 主軸 | 東西長(m) | 南北長(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61376～61379 | -91563～-91566 | N－14°－W | 2.53 | 3.1 | 中世 |

廃滓

| 番号 | 区 | 面 | X座標 | Y座標 | 主軸 | 長さ(m) | 幅(m) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 1 | 1 | 61369～61380 | -91571～-91580 | N－28°－W | 10.0 | 6.0 | 中世 |
| 2 | 1 | 1 | 61385～61389 | -91551～-91554 | N0° | (南北方向) 4.0 | (東西方向)：3.4 | 中世 |

## 第8表　遺物観察表

1面

9号土坑

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第12図<br>PL.18 | 1 | 在地土器<br>内耳鍋 | 口縁部1/4 | 口<br>底 | [29.0]<br>― | 高 | (6.8) | 細砂多/焼成良/<br>淡橙色～黒色 | 口唇部外削ぎ状、平坦面シャープ。内外面横撫で。 | 中世 |

15号土坑

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図<br>PL.18 | 1 | 陶器<br>碗か | 体部片 | 口<br>底 | ―<br>― | 高 | (2.6) | 良好/灰白色 | 内外面灰釉。 | 古瀬戸、14・15世紀 |

64号ピット

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第21図<br>PL.18 | 1 | 在地土器<br>内耳鍋 | 底部片 | 長<br>幅 | 14.0<br>6.7 | 厚 | 0.5～<br>0.7 | 細砂多/焼成良/<br>黒褐色 | 外面砂底状。内面横撫で。 | 中世 |

1号集石

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第25図<br>PL.18 | 1 | 石臼<br>上臼 | 3割残存 | 長<br>幅 | (16.2)<br>(18.3) | 厚<br>重 | 6.0<br>(2035) | 粗粒輝石安山岩 | 摺面は周縁部ほぼ平滑、偏べり顕著、刻線不明瞭。軸受け穴、引き手穴あり。 | 粉ひき形 |
| 第25図<br>PL.18 | 2 | 敲石 | 表面下位欠損 | 長<br>幅 | 14.4<br>5.3 | 厚<br>重 | 3.6<br>(389) | 安山岩 | 棒状円礫の片側に敲打痕、2次被熱痕あり。 | |

1号廃滓

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第29図<br>PL.18 | 1 | 銭貨<br>五銖 | 1/4 | 内径<br>外径 | -<br>- | 厚<br>重 | 0.093<br>0.4 | | 面、背ともに彫は深く明瞭。 | |

2号廃滓

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第30図<br>PL.18 | 1 | 鉄製品<br>釘 | 一部欠損 | 長<br>幅 | 4.35<br>0.8 | 厚<br>重 | 0.6<br>5.3 | | 脚部がわずかに欠ける。頭部は折り返され､鉤状に曲がる。 | |

遺構外

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第31図<br>PL.18 | 1 | 在地土器<br>内耳鍋 | 1区1面<br>頸部片 | 縦<br>横 | 5.6<br>3.7 | 厚 | 1.1 | 細砂少/焼成良/<br>黒褐色 | 内外面横撫で。口縁部内耳に窪み。 | 中世 |
| 第31図<br>PL.18 | 2 | 在地土器<br>内耳鍋 | 1区1面<br>口縁部片 | 縦<br>横 | 2.2<br>3.6 | 厚 | 0.8 | 細砂多/焼成良/<br>外：黒褐色<br>内：にぶい褐色 | 口唇部上端に平坦面。内外面横撫で。 | 中世 |

2面

遺構外

| 挿図<br>PL.No. | No. | 種類<br>器種 | 出土位置<br>残存率 | 計測値(cm、g) | | | | 胎土/焼成/色調<br>石材・素材等 | 成形・整形の特徴 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第37図<br>PL.18 | 1 | 縄文土器<br>深鉢 | 1区1面<br>口縁部片 | 縦<br>横 | 2.6<br>3.4 | 厚 | 0.7 | 細砂少、繊維多/焼成良/にぶい黄橙色 | 口唇部沈線間に羽状文。 | 関山Ｉ式古 |
| 第37図<br>PL.18 | 2 | 縄文土器<br>深鉢 | 1号廃滓<br>胴部片 | 縦<br>横 | 2.4<br>4.4 | 厚 | 1.1 | 砂粒多/焼成良/<br>にぶい黄褐色 | 器面荒れ。押引文と波状沈線。 | 勝坂2式 |
| 第37図<br>PL.18 | 3 | 縄文土器<br>深鉢 | 1区1面<br>胴部片 | 縦<br>横 | 7.0<br>7.7 | 厚 | 1.4 | 砂粒多/焼成良/<br>明赤褐色 | 内面かなり研磨。楕円区画文、縄文LR。 | 加曽利Ｅ1式 |
| 第37図<br>PL.18 | 4 | 縄文土器<br>深鉢 | 1区1面<br>胴部片 | 縦<br>横 | 3.9<br>4.3 | 厚 | 1.3 | 砂粒多/焼成良/<br>橙色 | 3と同一個体。 | 加曽利Ｅ1式 |
| 第37図<br>PL.18 | 5 | 縄文土器<br>深鉢 | 1区1面<br>口縁部片 | 縦<br>横 | 5.0<br>4.5 | 厚 | 0.6 | 砂粒少/焼成良/<br>にぶい黄橙色 | 内外面研磨、光沢あり。縄文LR。 | 加曽利Ｂ2式 |
| 第37図<br>PL.18 | 6 | 縄文土器<br>深鉢 | 1区1面<br>胴部片 | 縦<br>横 | 4.9<br>7.9 | 厚 | 0.7 | 砂粒多/焼成良/<br>にぶい黄橙色 | 括れ部に2条の平行沈線。外面粗い研磨。内面撫で。 | 加曽利Ｂ2式 |
| 第37図<br>PL.18 | 7 | 縄文土器<br>浅鉢 | 6号土坑<br>胴部片 | 縦<br>横 | 2.9<br>5.7 | 厚 | 0.7 | 砂粒多/焼成良/<br>にぶい黄褐色 | 内面研磨。縄文LR。 | 加曽利Ｂ2式 |
| 第37図<br>PL.18 | 8 | 縄文土器<br>鉢か | 1区1面<br>胴部片 | 縦<br>横 | 4.2<br>4.9 | 厚 | 0.9 | 砂粒少/焼成良/<br>にぶい橙色 | 内面粗い研磨。 | 加曽利Ｂ2式 |
| 第37図<br>PL.19 | 9 | 土製<br>円盤 | 1号廃滓<br>欠損品 | 縦<br>横 | 1.8<br>2.7 | 厚 | 0.8 | 片岩含む/明赤褐色 | 勝坂2式土器を使用 | |
| 第37図<br>PL.19 | 10 | 石鏃 | 1区1面<br>完形 | 長<br>幅 | 3.5<br>1.6 | 厚<br>重 | 0.6<br>1.9 | 黒曜石 | 先端部に調整剥離。表面劣化。 | 縄文 |
| 第37図<br>PL.19 | 11 | 弥生土器<br>甕 | 1号廃滓<br>肩部片 | 縦<br>横 | 4.2<br>4.4 | 厚 | 0.7 | 砂粒多/焼成良/<br>にぶい橙色 | 内面撫で。縄文LR。 | 弥生中期前半 |
| 第37図<br>PL.19 | 12 | 土師器<br>壺 | 13号土坑<br>頸部片 | 縦<br>横 | 2.9<br>3.7 | 厚 | 0.6 | 焼成良/明赤褐色 | 外面と口縁内面研磨 | 古墳時代か |
| 第37図<br>PL.19 | 13 | 須恵器<br>甕 | 1号廃滓<br>肩部片 | 縦<br>横 | 7.7<br>6.9 | 厚 | 1.3 | 焼成良/灰色 | 外面撫で、上半部に粗い研磨。内面横撫で、一部に平行線、かき目、もしくは叩き。 | 古墳時代か |

第９表　非掲載遺物集計表

| 遺構名 | 縄文土器 | 点数 | 重量(g) | 中世 | 点数 | 重量(g) | 近世 | 点数 | 重量(g) | 石器 | 点数 | 重量(g) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ６号土坑 | | | | | | | | | | 砕片（黒曜石） | 1 | 0.4 |
| ７号土坑 | | | | 内耳鍋片<br>廃滓片 | 1<br>1 | 4.9<br>6.7 | | | | 剥片 | 1 | 2.2 |
| 18号土坑 | 加曽利Ｅ３式 | 1 | 9.2 | | | | | | | | | |
| ６号ピット | | | | | | | | | | 剥片（チャート） | 1 | 3.5 |
| 1号集石 | | | | | | | | | | 打製石斧未成品 | 1 | 135.6 |
| １号廃滓 | 勝坂２式<br>中期 | 1<br>2 | 23.2 | | | | 陶磁器片 | 2 | 4.1 | 剥片（黒曜石）<br>砕片（黒曜石） | 1<br>1 | 1.6<br>0.1 |
| １面 | 加曽利Ｅ１式<br>中期 | 2<br>2 | 99.1 | | | | 陶磁器片 | 5 | 41.9 | 剥片（黒曜石）<br>剥片（安山岩） | 1<br>1 | 2.2<br>57.8 |
| 調査区外 | | 7 | 381.3 | | | | | | | | | |
| 計 | | 15 | 512.8 | | 2 | 11.6 | | 7 | 46.0 | | 8 | 203.4 |

# 写 真 図 版

# 1面(全景)

1　1面全景(北東から)

2　1面全景(南西から)

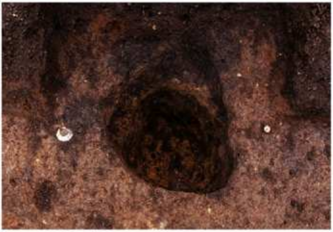
1　遺構検出状況（手前北西）

2　1面調査区中南部の遺構（北西から）

1　1号掘立柱建物全景(西から)

2　1号掘立柱建物ピット2土層断面(南東から)

3　1号掘立柱建物ピット4(北東から)



4　1号掘立柱建物ピット5(北西から)

5　1号掘立柱建物ピット7(北西から)

1　1号土壙墓上面(南西から)

2　1号土壙墓人骨出土状況(東から)

1　1号土坑全景(北西から)

2　2号土坑全景(西から)

3　3号土坑全景(北から)

4　4号土坑全景(北から)

5　5号土坑全景(北から)

6　6号土坑鉄滓出土状況(南東から)

7　7号土坑全景(北から)

8　8号土坑全景(東から)

1　9号土坑全景(北西から)

2　10号土坑全景(北西から)

3　11号土坑全景(西から)

4　12号土坑全景(南東から)

5　13号土坑全景(西から)

6　15号土坑全景(北西から)

7　16号土坑全景(西から)

8　17号土坑全景(北から)

1　18号土坑全景(北東から)

2　19号土坑土層断面(北東から)

3　20号土坑全景(北東から)

4　21号土坑全景(北から)

5　22号土坑全景(北西から)

6　23号土坑全景(北西から)

7　25号土坑全景(西から)

8　26号土坑全景(西から)

# 1面(土坑・集石・溝)

1　27号土坑全景(北東から)

2　28号土坑全景(西から)

3　1号集石全景(南東から)

4　1号集石礫出土状況(南東から)

5　1号集石土層断面(北東から)

6　1号溝土層断面(北西から)

7　1号溝全景(北から)

1　1号ピット全景（南東から）

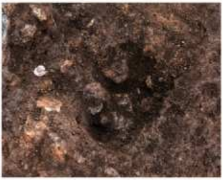
2　2号ピット全景（西から）

3　3号ピット全景（北西から）

4　4号ピット全景（北西から）

5　5号ピット全景（北西から）

6　6号ピット土層断面（南西から）


7　7号ピット全景（北東から）

8　8号ピット全景（北西から）

9　9号ピット全景（北西から）

10　10号ピット全景（北西から）

11　11号ピット全景（南東から）

12　12号ピット全景（南東から）

13　14号ピット全景（南西から）

14　16号ピット全景（南西から）

15　17号ピット全景（北西から）

1　18号ピット全景(北西から)

2　20号ピット全景(南東から)

3　21号ピット全景(南東から)

4　22号ピット全景(北西から)

5　23号ピット全景(北西から)

6　24号ピット全景(北西から)

7　25号ピット全景(北東から)

8　26号ピット全景(北東から)

9　27号ピット全景(北西から)

10　28号ピット全景(北西から)

11　29号ピット全景(北西から)

12　30号ピット全景(北から)

13　31号ピット全景(北西から)

14　33号ピット全景(北から)

15　34号ピット全景(北から)

1　35号ピット全景(北西から)

2　37号ピット全景(北西から)

3　38号ピット全景(北から)

4　39号ピット全景(北西から)

5　40号ピット全景(北西から)

6　41号ピット全景(北西から)

7　42号ピット全景(北東から)

8　43号ピット全景(北から)

9　44号ピット全景(北西から)

10　45号ピット全景(北東から)

11　46号ピット全景(北から)

12　47号ピット全景(北東から)

13　48号ピット全景(北西から)

14　51号ピット全景(南から)

15　52号ピット全景(北西から)

1 53･54号ピット全景（北西から、53左･54中）

2 55号ピット全景（北から）

3 56号ピット全景（北西から）

4 57号ピット全景（西から）

5 58号ピット全景（北から）

6 59号ピット全景（北西から）

7 60号ピット全景（北西から）

8 61号ピット全景（北から）

9 64号ピット全景（西から）

10 1号畑全景（北から）

1　1号畑土層断面（南から）

2　1号廃滓土層断面（北東から）

3　1号廃滓出土状況全景（北西から）

4　1号廃滓出土状況２回目（北西から）

5　1号廃滓鉄滓出土状況（33グリッド、北西から）

6　1号廃滓鉄滓出土状況（24グリッド、北西から）

7　1号廃滓鉄滓出土状況（出土遺物７、北西から）

1　２号廃滓出土状況全景（北から）

2　２号廃滓出土状況（北東から）

3　２号廃滓釘出土状況（南西から）

4　遺構外キセル出土状況（北から）

1　２面全景（北東から）

2　２面土坑・ピット群（東から）

3　24号土坑全景（北西から）

4　29号土坑全景（北東から）

5　30号土坑全景（南西から）

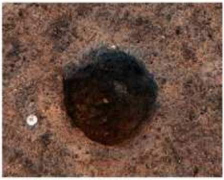
# ２面（ピット・遺構外出土遺物）

1　62号ピット全景（北西から）

2　63号ピット全景（北西から）

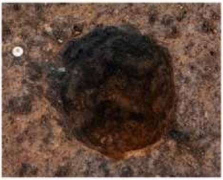
3　65号ピット全景（北西から）

4　66号ピット全景（北西から）



5　67号ピット全景（西から）

6　68号ピット全景（北西から）



7　69号ピット全景（北西から）

8　70号ピット全景（北西から）

9　遺構外石錐出土状況（北西から）

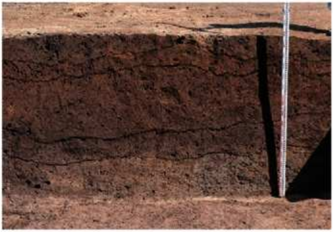
1　基本土層№1（南壁、北西から）

2　基本土層№2（北壁、南東から）

3　確認調査5・6号トレンチ（北西から）

4　西側谷確認調査2号トレンチ（北東から）

5　旧石器確認調査1号トレンチ（北西から）



6　旧石器確認調査1号トレンチ南壁土層断面（北西から）

# PL.18

1

9号土坑出土遺物

1

15号土坑出土遺物

1

64号ピット出土遺物

1 (1/4)

2

1号集石出土遺物

1 (1/1)

1号廃滓出土遺物

1 (1/2)

2号廃滓出土遺物

1

2

1面遺構外出土遺物

1

2

3

4

5

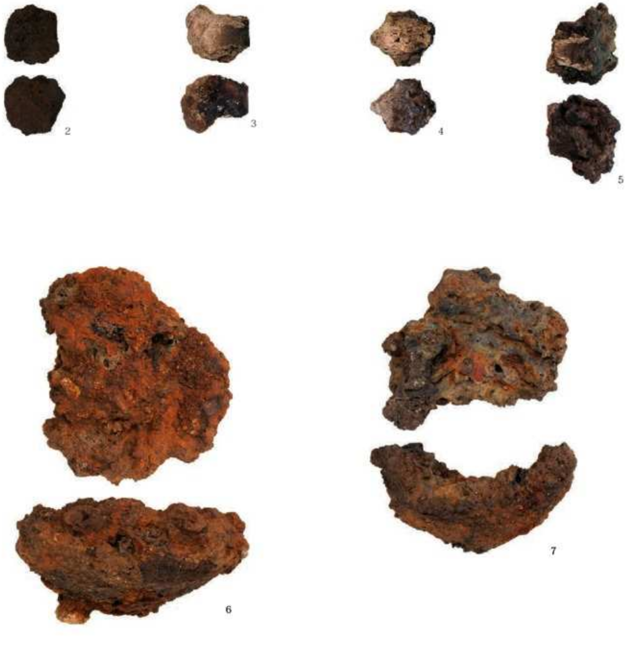
6

7

8

2面遺構外出土遺物

２面遺構外出土遺物




１号廃滓　出土鉄製関連遺物

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| 書名ふりがな | あつだはしづめいせき |
| 書　名 | 厚田橋詰遺跡 |
| 副書名 | 上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　次 | — |
| シリーズ名 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 |
| シリーズ番号 | 742 |
| 編著者名 | 石守晃、辰巳晃司、佐伯史子、奈良貴史 |
| 編集機関 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行機関 | 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 |
| 発行年月日 | 20240826 |
| 作成法人ID | 21005 |
| 郵便番号 | 377-8555 |
| 電話番号 | 0279-52-2511 |
| 住　所 | 群馬県渋川市北橘町下箱田784-2 |
| 遺跡名ふりがな | あつだはしづめいせき |
| 遺 跡 名 | 厚田橋詰遺跡 |
| 所在地ふりがな | ぐんまけんあがつまぐんひがしあがつままちおおあざあつだ |
| 遺跡所在地 | 群馬県吾妻郡東吾妻町大字厚田 |
| 市町村コード | 10429 |
| 遺跡番号 | 253 |
| 北緯(世界測地系) | 363256 |
| 東経(世界測地系) | 1384838 |
| 調査期間 | 20220401-20220531 |
| 調査面積 | 2,758.82 |
| 調査原因 | 道路建設 |
| 種　別 | 散布地 |
| 主な時代 | 縄文/中世 |
| 遺跡概要 | 縄文～平安：土坑３+ピット８、縄文土器(前・中期) +弥生土器(中期)、土師器+須恵器／中・近世：掘立柱建物１+土壙墓１+土坑26+ピット55+溝１+集石１+畑１+廃滓２、土器+陶磁器+金属器 |
| 特記事項 | 梁間１間型の掘立柱建物や中世土壙墓等中世所産の遺構を中心とする。 |
| 要　　約 | 本遺跡は吾妻川右岸の河岸段丘に面した丘陵上に立地する。縄文時代から近世の遺構と遺物を調査したが、遺構の多くは調査区中南部の他に比べて比較的平坦な区域に集中して在る。廃滓とした中近世と思われる鉄滓の分布域２か所を確認したが、製鉄炉等の遺構は確認できなかった。 |

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書　第742集

# 厚田橋詰遺跡

上信自動車道吾妻東バイパス事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

令和６(2024)年８月22日　印刷
令和６(2024)年８月26日　発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555　群馬県渋川市北橘町下箱田784番地2
電話(0279)52-2511(代表)
ホームページアドレス　http://www.gunmaibun.org/

印刷／松本印刷工業株式会社